

1. 件名:「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-130)、
廃棄物管理施設(105))」

2. 日時: 令和5年12月12日(火) 10時00分~12時20分

3. 場所: 原子力規制庁 10階会議室 (TV会議により実施)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

古作企画調査官、岸野主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、小野安
全審査官、上出安全審査官

日本原燃株式会社 技術本部 土木建築部 部長 他1名

東電設計株式会社 土木本部 耐震技術部 担当職

5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年12月7
日及び12月11日提出資料に基づき、入力地震動の算定に用いる地盤モ
デルの設定について確認を行った。

(2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。

- ・入力地震動の算定に用いる地盤モデルの設定については、各種調査や分析
の説明に当たり、調査等の目的を明らかにした上で、結果とこれに対する
考察を示すよう整理する。

6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

7. その他

提出資料

なし

参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書(令和4年

12月26日)

「日本原燃(株)から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書(令和4年12月26日)

「日本原燃(株)から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書(令和4年12月26日)

「日本原燃(株)から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書(令和4年12月26日)

「日本原燃(株)から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html

- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書(令和4年12月26日)

「日本原燃(株)から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html

- ・ 令和5年12月7日

「日本原燃(株)再処理施設、MOX施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

- ・ 令和5年12月11日

「日本原燃(株)再処理施設、MOX施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	開始しました。それではただいまから
0:00:04	私が
0:00:05	ヒアリングを開始します。本日のヒアリングは令和4年12月26日に申請のあった再処理施設廃棄物管理施設の設工認申請について、12月4日、
0:00:16	に提出された資料、あと12月10日昨日ですねその更新資料が提出された、それらの資料をもとに、事実関係の事実確認を行うものになります。
0:00:25	まず規制庁の出席者は本庁からコサクハバサキオノレベルからカミデシノとなっています。それでは日本原燃から出席者の紹介と資料の紹介をお願いいたします。
0:00:40	はい。日本原燃事務局の中浜でございます。
0:00:44	日本原燃側の出席者紹介いたします。
0:00:47	Steeringチームより、ノモト、サポートメンバーといたしまして、オガセ及び東電設計様よりウノ様。
0:00:57	再処理の事務局参加させていただいております。本日も確認いただきます資料、先ほどご紹介ありました耐震建物08ですね、そちらの方の確認をいただきたいと思っております。
0:01:10	それでは、説明の方開始させていただきます。
0:01:15	はい。日本原燃野本でございます。それではですね流1日にご提出いたしました、R25のページ番号に沿って、
0:01:28	今回ご説明差し上げたいというふうに思っております。ですね今回ご提出しておりますのは、伊佐検層の部分の追加たのを追加したもの、それから、表層地盤についてのボーリングデータを追加したものであるということで、
0:01:46	ご提出してございまして、ここまででございますねちょっとヒアリングでいただいたコメントをですね一部まだちょっと反映できてないところがあるのはちょっと申し訳ないんですけども、まずはちょっとデータをですね、ご提示するという観点で提出させていただいているところでございます。
0:02:05	また昨日お出しして今日のヒアリングをいただいているところでございますので、このですね内容をですね、すべからくちょっとご確認いただく。
0:02:15	時間が取れなかったのも申し訳ないんですけども、少なくともご提出しているデータについて、もし疑義がございましたらば、そういうところのチェック確認いただく必要があらうかと思っちょつとこういうちょつと無理な設定させていただきました。

0:02:29	申し訳ございません。それではですね説明でございます。ですね追加データオクに関しては仮称と、それが反映した箇所を主に説明差し上げたいというふうに思います。
0:02:41	まずですねえと、SIer検層に関する追加データですけども、こちらの方はですね、データそのものの追加に関する地域事項といいますが、投資定義で 723 ページから、
0:02:56	その教育測定にかかる観測発見と減衰定数ということでここからですね、この伊佐憲章に関する、この観測くうの、信頼性の確認の考え方とその方法と、
0:03:11	いうところを提起してございまして、その次はですね 725 ページのところから、この監査個人版における呉タケヤ相当の影響及び継続審議についてと。
0:03:22	ということで、今後ですね、周辺の
0:03:26	すいません、えっとですね、このですね、周辺の表層の影響につきましての説明として、信頼性を担保するためのデータ採取入ると。
0:03:38	そういったところの説明を追記しているところでございます。それからそのあとにですね、今回られましたパソコンは系とかさばっケアサプレション処理後のものと、その終発ごとの減衰定数と、
0:03:52	いったようなところで、まとめていくといったところのデータを今回、すべてお示しているところでございます。これが生で獲られたところの、一次データに近いところのものとして、
0:04:05	英語できてるものでございますけれども、エザワ程度といたしましての結果としましては、通しページのですね、その 468 ページ以降、
0:04:16	持参してた 470 ページから、それぞれのインダ検証の結果につきまして、ご提示しているところでございます。ちょっとここで一つすいませんお詫びなんですけど 476 ページとしてやや 76 ページのところ、
0:04:33	とですね、す。
0:04:36	下から 12356 行目のところ、もう、3-3 図に基づきと書いてございましてけどこれ 5.3-4 に基づき、仙石でございます。
0:04:48	ここで参照しておりますのが、481 ページの 5.3-4、追加調査にられた飛散速度と減衰定数を、今回、こうですね、分子と下水をまとめてプロットしていると。
0:05:05	いったようなところになってございまして、傾向といたしましては、その減衰定数学会については中央地盤、西側儀間東原秋葉の順で大きくなる傾向が見てとれていて、それから下側については中央基盤については、

0:05:22	概ね浅部から深部まで行って速度構造ですけれどもニシカワさんは中央構造、中央市場にも小さい速度構造を示すと。東側地盤については、
0:05:33	ー13において速度境界があるという特徴を有しています。
0:05:38	いったような特徴について、分析してるところでございます。
0:05:43	で、このような状況踏まえますと、減衰定数がニシダ 10 番が 90%でも大きくなっていることについてはまず、既往知見における傾向と同様に挿すことが、大きい 2 番については減衰定数が大きくて、そこが小さい場合において減衰定数が、
0:06:01	大きくなるとの傾向と整合しているといった形で分析してございまして、刀禰杉尾須田アシダ基盤が中旬が大きくなっているところについては中央地盤が比較的均質堆積岩が主要な子会社であることに対しまして、
0:06:16	ヒガシ松原については、クボ大田オオキコウノフィッシャーに堆積物に対応手段が多く分析していることによりまして、早急での散乱から、中央地盤と比較して作成しやすい傾向になっているといったような考察を加えているところでございます。
0:06:32	で、えっとですね、これに基づきまして、分析を、ですね、これ付随いたしまして、この岩盤物性の方の、
0:06:47	データをPS検層コウアノ荒谷、ユキ件数置き換えられましたので、追加してございまして、そこを記載してセキせるのが、イメージ 80 ページから、
0:06:58	のところございまして、各建屋のPS検層の結果につきまして、この分析を行っておりますけれどもこれ追加データを加えました分析を追記しているというところでございます。
0:07:14	それから、
0:07:17	それに付随してと申しますか、関連するですね、岩盤部分の物性値の検討についても見やすいところがございまして、境界断層を持つ、2 番についての影響検討といたしまして、
0:07:33	年ページ 259 ページから 14 グループのコウですね、許可地盤が所管断層がある場合のこの検討につきまして、追加調査データを加えた
0:07:47	形での分析だということで今回、江藤地域しているところでございます。
0:07:53	以上がキシダ検層に基づく追加車検ソウノウタところの鳥飼町のご説明でございまして次に競争基盤の物資についての
0:08:06	ボーリング調査結果につきましてのセキ箇所でございます。まずデータそのものでございますけれども、ですね。
0:08:25	当時経費の 846 ページから、追加ボーリング調査等での今度ですね、それぞれの速度構造、それからアノさんについての玉野杉本氏の流動処理といったようなところの、

0:08:44	大瀬のボーリングのデータをお示しするとともに、それぞれのDたとして、ボーリング孔ごとの
0:08:55	G0 の値を、そのあとですね、追加調査のところでいきますと、850。
0:09:08	2 ページからですかね、追加中にですねこの中に追加する形でお示しているところでございます。
0:09:18	で、その形でお示したDたに、
0:09:25	今の分析ですけれども、
0:09:29	少しとられましたデータを、
0:09:34	分析しております夏井。通しページで 805 ページ。
0:09:40	タダでございます、追加調査結果を踏まえた検討といった形でお示しております。805 ページの 3.4. 1 図 3.4. ニイツは、この追加調査結果を加えた形での引き継ぎと暴行及び事前報告。
0:09:58	プロットしておりますこの中では、これまでとったものそれから追加とったものというのを暴露する形で示しています。
0:10:08	またですね、年ページ 807 ページのところ、今回の追加調査結果も不含めましたボーリング柱状図による率を実際確認するこれを、
0:10:21	オーバフローとしてございまして年代別に受けたのが、808 ページでございます。この離散CABRI数と、往路を基にですね、このですね、事前報告を、
0:10:38	まとめたもの、今日もやっておりますけれどもそれを改めてボーリングデータでやった結果というのが、809 ページの
0:10:47	結果でございます。891 ページのZoomイケダハバノのプロットですね、こちらが今回獲られたものも含めて全データに基づきまして、そうですねとそれからアノフクイですか。
0:11:04	藤井坂Vsと元西田栄治 0 こういう形でやっております、結論といたしましては今回ですね追加ボーリングの境界を超えることによりまして、
0:11:16	この 2999 年以前、1 年以降の平均値というのは、基本のボーリング孔の平均値といえますか、お互いに企画部様な傾向が見えていると。
0:11:27	ということで、こういう形で同一母集団と判断してきたこれまでの我々の過程ではございますけれども、そういうふうな扱いをやっていこうというところをある意味裏付けるように聞いたらとれたのかなと。
0:11:42	いうふうに考えているところでございます。
0:11:46	藤元私からの説明でございます原燃側から補足ありますか。
0:11:51	はい。ご説明以上でございます。
0:11:59	はい。
0:12:03	規制庁カミデですけど、とりあえず最初の

0:12:08	ステータスから確認したいんですけど表紙のところの2ポツのところろが、
0:12:15	ちょっとよくわか読んでてもよくわからなかったんですけど、
0:12:22	あと、何が残ってるんでしたっけっていう質問の方がいいですかね。まだ反映しきれてないところってのはどういう認識ですか。
0:12:33	はい。元ノモトでございます。まだ反映しきれてないものには、2種類ございまして、まず1種類名は追加データとれていないもの。
0:12:46	植田とそそいう三種類ですね、まず追加データとれていないものこれはオガセコウ試験のものが掘っている。二つ目の種類は、
0:12:57	今回追加調査はとっているだけけれどもこの後に続く分析がまだ未完でデータ学の中に記載していないもの、例えば非線形、
0:13:09	の検討での応答の比較なんかそれがそれに該当します。三つ目が、これまでいただいたヒアリングの中でですね、このですね記載アンカーといいますか、キタニのちょっと考え方なんかを整理してと。
0:13:28	そういったところをちょっとまだ反映し切れていないところがございます。これが三つめてございます。今回ですねこの出席にあたってちょっとできる限り反映は試みたんですけども、まだちょっとすべてできてないところがあっしていきたいなという認識は残ってございます。以上でございます。
0:13:47	はい。規制庁上出です。1点目のカセコウの話は自明で、二つ目の規制系が云々っていうのはよくわからなくてS波計装、
0:13:59	の結果をもって非線形で何かやることあるってそういうことですか。
0:14:04	元ノモトでございます。Sは検層の結果ではなくってですね、今回のPS検層の結果を、まず岩盤法制に反映する必要ございましてこのときに、ガンバ松末決める時には、
0:14:23	その速度構造のほかに、堆積密度のデータも取る必要がございます。これは、
0:14:33	広域圏のデータをもとに、このを設定することになるんですけども、この滞在セキネクドウのデータがまだとれていってますかまだ整理できていないっていうか、取ってNEA整理している最中と、
0:14:48	いうところでございます。これがまだなものですから、ここのですね、まだと言いますか全部完了してないものですから、ここにつきまして、何番部分の物性決定というのが、
0:15:01	すべてはまだ完了しない状態にございます。すべては、紙芝居。すいません。

0:15:08	規制庁亀井です。まだ密度が取れてないっていう話なんですけど、密度は別紙1、岩盤部線の話では関係なくて非線形のところだけ、関係するパラメーターだから、
0:15:23	別紙2-2だけまだなんですっていうそういう説明ですか。
0:15:29	元ノモトでございます。別紙2-1と2-2が、連れもって、頭に×されるというふうにご認識いただければというふうに思います。
0:15:39	はい。規制庁神です。最初の説明だと非線形のところがまだですっていう話じゃなかったでしたっけあんまり蒸し返したくもないんですけど。
0:15:47	玄野本でございます。一番下流の非線形を代表としてすみません申し上げましたけれども、そういう意味では2-1の岩盤物性についても同様でございます。
0:15:58	はい、規制庁CAMSでそうなる等、
0:16:03	来週の会合で、今日また介護資料出てきた者ヒアリングしますけど、
0:16:10	追加データを含めた
0:16:14	別紙2の1が岩盤の物性値っていうのは、これぐらいになりそうだっていうのは代表の建屋でもう見せて、話ができないかなあと言っていましたけど、
0:16:27	それわあ、かなわなかったということですか。
0:16:32	玄野元でございます。ですね、そういう意味ではアカセアノを少しちょっとウダさせ申し訳ないんですけどもまず非線形に関しては、ですねすみません、もっかいちょっと疑問を持って調べます。上の方からまたしゃべらせていただきますけども、
0:16:50	岩盤部分の分析につきましては、今回の会合でAとA-24については、
0:17:02	岩盤物性が、少なくとも速度を構造のデータのところまではお示しすることが可能です。そこまでの解析が終了しましたので、それはご提示することができます。
0:17:15	で、そのですね下流のですね非線形のところにつきましては、これは今回の追加データを含めた形でお示しすることはできません。できませんけれども、我々のご説明としては、基本、データで、傾向が見られていて今の
0:17:35	南部千賀傾向から見ると、おそらく傾向としてそういうほど変わらないであろうという、水素地区ではありますけれども、我々の見解は述べることができるかなと考えていると、今そういう私生活でございます。以上でございます。
0:17:53	うん。規制庁カミデですどっちにしても三つは取れてないんだけど、岩盤のところは密度がなくても、密度がないからスペクトルをかけたいけど、

	大体モデルとしては昆虫の速度構造とかこんな感じのモデルになりますとイメージは話ができるから、
0:18:10	それぐらいの話は、できると。ただ規制権みたいに、スペクトル変えて重ねがけしてっていうフェーズで議論、評価、考察しているものはすべてをかけないから
0:18:26	ワダなんですってそういうことですか。
0:18:29	元ノモトでございます。その通りでございます。
0:18:34	はい、規制庁カミヤサノとりあえず状況はわかりました。二つ目がそれで、あと未
0:18:40	三つ目って何のお話されてましたっけすみません。
0:18:45	上野でございます。先般のヒアリングでもいただいております。コメン等です、この
0:18:55	記載、シナリオなんかはですねちょっと全体にちゃんと整理した形で記載しなきゃいけないというふうなところが少しまだ
0:19:06	修正しきれないところが残ってるというちょっと自覚がございますね、本来ならば、そのところは、いただいたコメントのですね星取表のような形で今回お出しすべきであると。
0:19:21	いう認識も持ってはいたんですけども、申し訳ありません正直言いますとちょっと会合資料と並行していいわけではないんですけどももう手が回らなくて今回ちょっと分析できなかったと。
0:19:34	いうのは、AはBしないといけないというところかというふうに思っております。以上でございます。
0:19:43	はい、規制庁個別わかりましたその辺は、多分スケジュールの話なんで最後
0:19:48	9 とします。はい。
0:19:51	他、冒頭のところあと本文も含めてですけど、
0:19:57	規制庁若菜に確認ありますか。
0:20:07	規制庁神です。特になければもう別紙の方に、で、まずは別紙の2の1看板部分の物性値ですけども、これもさほど情報は増えてはいないところ、
0:20:20	確認がある方がいればお願いします。
0:20:25	清町の岸野です。
0:20:29	あと2点ほど確認したいです。まず76ページをお願いできますか。
0:20:36	はい。
0:20:39	平面図があつてですね、各グループに、どのボーリングデータを適用するかというような図になっていると思っていて、これは実は会合資料にあるんですけども、

0:20:50	どのグループにどう、
0:20:53	どういうふうに適用するかの説明ってこの、
0:20:56	補足説明資料では、ちょっと私がぱっと見た限り見つからなかったの で、
0:21:01	改めてその
0:21:03	グループに、既存データや追加データをどのように適用するかという考 え方を説明いただいていいでしょうか。
0:21:12	はい、日本原燃のオガセでございますまさしく今岸野さんおっしゃって おりました今回追加した、76 ページの、何色というオレンジの追加調査コ ウを、どのグループに入れるかという概念につきましては後の、ちょっと 例でお示ししますと、92 ページとかをちょっとご覧いただければ、F施設 周辺グループの
0:21:30	何ていうんすかね
0:21:32	地質状況とかコウの選定みたいなどころの考え方を変えているのがす みません繰り返し 92 ページになります。92 ページのところの最後の追 加調査見て獲られたっていう、下から 2 段落目のところですかね、ここ から、
0:21:46	その追加にとったところの穴の地質構造というところが各グループの監 視構造とかそういうのと比べて似ているとか見ていないとかそういうと ころを踏まえて、ちゃんとこのグループに入れましょうという考え方が書い ているこれを各グループのところに書いているというところで、記載の方 させていただいているところでございます。以上です。
0:22:03	成長のキシノで最わかりました。そうするとグループごとに個別の説明 にいきなり入っていて、全体棟全体共通の考え方の説明はこの資料で はないということでもいいんですか。
0:22:19	はい。日本原燃のオガセです追加調査坑だからこういう共通方針でどこ かに、のグループに当てはめるといふ考えというよりは、今まで既往の データもございましたのでそれと並列に扱ってやっているというようなそ ういふイメージですですので逆に言うと
0:22:35	その追加調査坑であろうがその企業法であろうが反映できるできない と、いふようなところの考え方というのは同じというところにのっっている なので、その分析結果についても後でまとめて述べているというところ の位置付けで今は進めております。以上です。
0:22:50	規制庁の岸野です。ちょっとそこが、
0:22:53	違うんじゃないかなあと思ってるのは、会話シラガの方にはですね、先 ほどの 70。
0:23:00	2 ページでしたっけ、の、76 ページ、ご覧なつて、

0:23:04	それを説明が簡単な文章で載ってるんですね。
0:23:09	既存データが云々、成果調査データが云々って書いてあるんですけど、既存と追加調査、追加調査とD、
0:23:19	どのグループにどれを使うかっていう考え方がどう違って、
0:23:24	既存の方が、よくわかんないけど、グループをはかっている制度の中に含まれてるかどうか、ホンダてるものだけ見れば、
0:23:35	追加調査は、よくわかんないけど離れて言えば何だろうが全部使います。確かそういう説明だったような気がするんですけども、この認識は持ってますか。日本原燃の麻生ですおっしゃる通りでございますそういう意味では追加調査データと既往データにつきましては、最初のところの、
0:23:52	最上流というんですねその使い方というところの、思想みたいなところは確かに審査会合資料に書いてございます通り、追加調査につきましては言い方はちょっとブレイクした言い方ですけどせっかくとったものでございますので、各グループどこかでは使いましょうというようなところの大方針に基づいて、我々やっているところで結果として、
0:24:12	例えば 76 ページの図のCとAベツプの間にあるコウとかみたいなところですね、複数グループに結果として跨らせるようなデータもあるような形で適用させていくというようなそういうような大方針がありますんで、それはすいません今会合資料には書いてるんですがすいませんちょっと出す時期の関係もあってこの 08 の資料には入っていないので、
0:24:31	ちょっとその上流のところの考え方からですね、そこが違うのであれば違うというふうなところを個別に書く必要があると認識しました。以上です。岸野です。うん。お聞きしたかったんですね。
0:24:43	既存調査は含めないものがあり、追加調査はどういうものであれば使うんだっていう、
0:24:50	その考え方の違いって何ですか。うん。
0:24:54	いうことなんですけども、おっしゃったのは、追加調査せっかくやったんだから全部使え、理由としてはそれだけなんですか。
0:25:04	芸能と言われます。ちょっと考え方のところなんですけれども既存の方はもともとボーリングデータがある、あるということとそれからそれに対して、タケヤグループがこういうふう存在すると。そしたら既存にあるものを、
0:25:19	そういう、こういうふうにとってこようよねということで、このそれぞれ研究するものを決めたと、いうことなんですけども、追加調査の方はもともとこのですねグループに対する補足のデータを取りたいと。

0:25:35	いや意思を持ってとあるんですねこのタケヤに伝えたりといったような意見を持って、コントロールしてやっているところでございます。
0:25:46	そういう意味ではそれちょっと成り立ちが違うので、ちょっとそういう意味ではちょっと考え方が違ってくるのかなというふうには思ったんですけども、もともとあるタケヤに、タケヤグループに適用しよう。
0:26:01	いいと思ってここであればその地盤構造に対して、適正なデータがとれるであろうと思って選定したものでございますから、それは適用できるといったような作りで改正したいというふうにかんがえたところでございます。以上でございます。
0:26:17	はい、わかりました。はい。例えば 76 ページのですね、図 2、z 周辺グループっていうのがありますよね。
0:26:26	既存データの赤等で、2-4 という、
0:26:31	これは使わなくて、
0:26:33	これよりも離れている追加調査データの R5-91 っていうのを使いますよっていうのは、
0:26:39	もう基本路線が追加調査はもうどれを使う使わないように決まってるから変えなくて、追加調査はもう終えられたものすべてを使うのが前提だから使うんだと、そういう説明と理解しましたけど、それでいいですね。
0:26:56	日本原燃オガセです。今、岸野さんがおっしゃった内容自体ははい。そういった理解だと思います。一応真木オオノDた、赤と青の Kou 76 ページにあるものでもちまして、今ご説明しておりました通り、建物の構築物の直下または近傍というところのデータについてはあるというところでございます。
0:27:16	一方で今回の S 波検層を減衰の方でやるというところで、今までやってなかった調査のところをやるというところで、建屋のちょっとある程度のグループの間を取るようなところのデータが PS 検層としてもえられるところがありましたので、それらのデータについても見てみようというところ先ほどアノノモトの方でおっしゃっ
0:27:34	申し上げておりましたところのある意味、補助的な位置付けというところがそういう位置付けになっておまして基本的にはやはり建物の直下近傍にあるものはそれを使うというのが原則にあつての追加調査を反映するというようなそういうような順番の方、位置付けだというふうにかんがえておりますので、
0:27:49	現状につきましては今周辺に行きますと、青井 Kou 二つ EW Kou と飯野伊井通行のところ直下にあるものとして採用するもの、かつ、先先ほど申し上げた追加調査 Kou というものを見ってみるというところを

0:28:03	ある意味補助的な位置付けでやるというそういうような位置付けがこの岩盤物性の用いるデータの考え方だというふうに思っております。以上です。
0:28:11	はい。あ、ごめんなさい。
0:28:14	ちょっと我慢できなくなったので、
0:28:17	周辺について再度
0:28:20	周辺について使うって言うのなら営業も入れるべきじゃないんですか。
0:28:25	使えるものは何でも使う並べた上で分析するっていう姿勢じゃないような気がするんですけど。
0:28:34	並べた上で、使えないって判断するのはいいと思うんですけど、並べないっていうのはありえないんですよ。
0:28:51	少なくともこれまで説明された元の方針からすればですね。
0:28:56	これまで元が嘘ついたって言うんだったらどうぞそういう説明をしてください。
0:29:07	下の方でございます。
0:29:11	おっしゃってルー出身はわからん同じ原則に基づいてやってたんじゃなかったのかねって教えていただけるんだというふうに思います。
0:29:21	ですね、そういう意味で今、仕上がり、を見たときに、どうもその原則がずれてるように見えるというご指摘もよくわかるところです。で、
0:29:34	ここのですね建屋に対しての、できるだけ、正しいといいますか現実に近いものを取ろうというふうに我々、考えた時にですね周辺にあるものと直下にあるものが、
0:29:49	あった時にですね、損
0:29:54	もともとあるものであれば、直下のものを優先させるというのが、素直だろうなというふうにもともと考えたところでございます。この
0:30:06	直下であれば許可優先させるという考え方に基づいて、もともとデータを整理した上で、やっぱりちょっとこれを補完したいよねという意図で、また掘ると、
0:30:21	いうことを今回追加調査として行ったということではございます。その追加調査を行うときには、その直下の物性、
0:30:31	を保管するに足るような地盤内のところ、また選んでちゃんとやっているといったようなところでございますので、たまたま近所にあったものとはやっぱりちょっと位置付けが違うのかなというふうには思っているところでございます。
0:30:45	そういうことで今ちょっと離れたところについていたものはない。飯尾については堀田だけで、

0:30:53	たまたま堀田だけの4のデータだから使わないっていうんですね、その説明してください。
0:30:59	うん。
0:31:00	そうですね。
0:31:03	規制庁ハバサキなんですけど、さっきの大橋さんの説明はちょっとおかしくて、例えば、z周辺で地盤モデルを作りましょうと、作り直しましょうというした時には、
0:31:14	飯尾も含めて、周辺の直下及び周辺の、
0:31:19	猪柱状図を見ながら、結果的にはEWと、2の調査坑を、の結果に基づいて作りましたと、4はその時点で何らかの判断で、
0:31:32	オミットしますという判断があったと思うんですよ。
0:31:35	で、今回、R5-9-8っていうのが追加されましたと。さっきの小川さんののは、発話は何でもいいからここにはゼット近くのものだから入れましょうっていうんじゃないくて、
0:31:48	4と同じように、まずそれがZの地盤モデルに組み込むのが適切かどうかを判断しましたと。
0:31:58	その上で、9-8については、モデルの中に取り込むことが適切だと判断したということで、Q8は今回は追加しました。
0:32:09	4は、すいません。今のは、ハバサキの表現の中で、ちょっと飛ばしちゃったかなと思うのは、判断しましたっていう前の状況を今回説明しなさいよと。
0:32:21	ということで判断するのは次の段階なり、今回最後の方で行ってもいいんですけど、というところですからまず土俵に上げるっていう土俵に上げない限りはオミットするっていう判断にも繋がらないわけで、なので、あげてくださいよと申し上げていて、
0:32:38	今回は追加しているので98のところは論点なんではありますけど、
0:32:44	じゃあそれでもし入れる入れないっていう時に、4の方の話と整合してるのかと。
0:32:51	いう話をしてもらわなきゃいけないくて、その話をしようと思うとオミットしようがしてまいが、4は入れてないと話が通じないんですよ。
0:33:01	わかりますかね。
0:33:07	2年の方でございます。はい。ですね。
0:33:13	そうですね。
0:33:15	正直言いましてちょっと2系列で我々すみません事件っていう方が間違いでおっしゃって欲しい。一井ナカ0ナカマーアカシリませんけど、
0:33:28	うん。
0:33:29	オオモトからやり直したんじゃないんですか。

0:33:32	そうですねそのやり直す呉検討も、これも我々の中で、事件持ってやってしまっていたので、今この断面で振り返ると、
0:33:45	そういうこと、そういうことといいますか方針的に、どうもその時系列を言わないと説明できないような状態になっている状態になっているということは、
0:33:55	認識いたします。で、そうですねイマダカラー、振り返って、やっぱりちゃんと議決抜きで綺麗にすると。
0:34:07	いうことであれば、そうですねそういう説明にしなきゃいけないなというふうに、我々もちょっと今こちらで考えているところでございますので、ちょっと周辺のものも、入れる形での分析を検討してみたいというふうに考えます。以上でございます。
0:34:28	はい、古作です。すいません。岸野さんの話を割り込み過ぎましたけど、Zは4を含めてということで、何となく周辺一通りのものが入るのかなと思うんですけど。
0:34:40	じゃあ他はっていうところなんですけど、
0:34:44	一番簡単なところから行きましょう。
0:34:46	西側。
0:34:48	施設周辺については、
0:34:51	R595 は入れると言われていて、B4 はさすがに周辺と言わないということですかね。
0:35:00	はい。日本原燃の加瀬でございますおっしゃる通りかと思っております。これはさすがに離れているからというところだと。
0:35:07	はい。コサクです。次、中央地盤の北川
0:35:12	ですけど、
0:35:13	これのD6 はどうします。
0:35:16	はい。日本原燃のオガセでございますアノイデこれは入れるかなと今思っております。はい。当然その時に地質の比較とかをやるわけなんですけどもはい。はい。感覚的には入れるつもりです。
0:35:28	はい、細田です。わかりました入れた上で、どうするかっていうところで違いがあるのでどうこうだったり、そもそも、
0:35:35	直下で十分。
0:35:36	評価ができるのでというのかというようなことはいろいろと、
0:35:40	分析して先ほど説明されたような場所です、明確にしてもらえればと思います。
0:35:46	そうしたら、次は、封は一通り入ってそうなので、
0:35:57	その下が、T
0:36:03	C4 っていうのは、どっちの地盤になるんですか。

0:36:07	はい、原燃オガセでございます。はい。次はこれだと思ってまして、CE Oはこれ西側に行っているところなのでちょっとGAに入れるにはこれはちょっと違うの地質が違うなっていうのがいえると思いますのでこれはちょっと入れないような検討になるかなと思っております。
0:36:20	はい。補足ですわかりました。次のところの、
0:36:24	微妙なところになってるD4 なんですかね。これはもともと時に入ってるんですか。
0:36:31	はい権現オガセサノおっしゃる通りG-N4 コウノ中ヒガシにある赤い点黄色い縦の線にかぶってるやつだと思うんですがこれはすでにGの中に入っております。
0:36:42	はい、細田です。わかりました。
0:36:44	で、そうすると中央も大体よって、そうですねはいです。はい。江藤東川先ほど話をしたところ、Cについては、
0:36:57	はい。元オガセ椎野北川に1個あると思います椎野アノ椎野字のちょっと右側にあるやつですけども、これについては今入っていないもので、今これからの検討では入れた検討にしてみるのかなと思っております。で、一方でちょっと次にいってしまいますがその右上、北東の方に
0:37:16	オオノいい後かな税のいいかなってところの方がいるんですが、これはちょっと微妙なところですのでちょっとこれ小さくて考えるのかなというふうなところでは。
0:37:24	はい。
0:37:25	はい、そうです。わかりました。
0:37:28	ちなみに、
0:37:31	PA建屋になっちゃいますけどD3 ってどう扱ってたんでしたっけ。
0:37:38	わかる人いないか。
0:37:41	すいません日本原燃オガセアノMOXのPA建屋のところの減産だと思ってんですけどもこれは入れてなかったですピーエイの時にも、
0:37:49	はい。わかりました。ここは直下住宅にデータがあったので、ありつつとところで終わったのかなと。
0:38:00	ええ。
0:38:04	G14 はあれですね、一通り拾ってるんですか。はい。議長さんお願いします。
0:38:13	はい。岸野です。
0:38:15	五味の話が進んでしまったんですが、すっきりしたんですけれども、
0:38:22	さっきの太田さんの説明って多分これから吟味されるので、説明の内容も変わってくるかもしれないんだけど、例えば、東側地盤にある大高イイ

	ダ鹿野飯尾っていうやつはこれは距離的についでいうようなことをおっしゃっていて確かに距離っていうのも、
0:38:37	大きな要素ではあるんですけども、あと、地層の状況からして、例えばA. Cの赤丸とか直下が変わると、連続性があるって十分使えるんだったら使うとかですね、何かそういった分析、
0:38:51	評価っていうのもあり得るかと思えますけど、そういったことも含めてこれから検討されるということでもいいですかね。
0:38:57	はい、原燃のオガセアノまさしくおっしゃる通りでございます。この辺でSF3 断層とかもあったりしますのでちょっとそういうところも見た上でちゃんと入れるべきか入れないべきかというところはここのここだけじゃなくて他のところもですけども
0:39:09	はいそういうのを行った上でこの周辺コウも含めて、データとして取り込むか取り組まないかというところはきちんと1個1個書かせていただきたいと思ってます。以上です。
0:39:17	規制庁仁木です。わかりました。そうすると、もう一度どのグループにどれを使うのかってのは既存も含めて再度ソース見直しするというようなことになったのかなと理解してまして、
0:39:30	会話での説明ってどうなります。今日出てくる資料って多分先週と変わらずで、異存が使う使わないあって、追加を全部使いますっていうような形になってるんですけど。
0:39:41	外部ではその辺りどういうふうに説明されるお考えですかね。
0:39:46	出野でございます。まさしく今アンドウを説明するかなと考えておりましたけれども、
0:39:54	ですね、少なくともこれを入れた形の分析データを熱心するっていう形にはならないので、そうですね。
0:40:05	うん。
0:40:06	えっとですね、今の考え方も母集団コウとりますので、その母集団をもとに、こういうふうに分析しますまでご説明している下流まで全部すっと出すっていうのもちょっとやり過ぎかなというふうに思いますので、
0:40:21	母集団の考え方は一旦こういうふうな形で整理はしたけれども、今改めて振り返ってみると、その近傍のものも踏まえ、含めた方がいいんじゃないかと、いうような、我々の中の議論もあるので、ちょっとそこんところを検討して、ファイナルアンサーを
0:40:41	ただ、定めて参りますといったようなご説明になるのかなあと今私は思っておりました。
0:40:49	はい。規制庁一井です。わかりました。ガスター介護ヒアリングがあるので、資料にどの程度反映もしくは反映されないかもしんないですけども、

	今おっしゃったような考え方がもう少しクリアになって会合当日はこんな説明にしたいと思うというのがありましたらですね。
0:41:05	そのヒアリングで、より明確に説明いただければと思いますので、準備をお願いできればと思います。はい。元ノモトでございます。はい。ちょっと口頭になってしまうかとは思いますが、そのところ我々の考え方はこういうふうに説明しますということを明確にちょっとお示すようにいたします。以上です。
0:41:24	小阪です。話題になってたところでちょっと確認なんですけど、
0:41:32	等、
0:41:33	F。
0:41:35	の関係でのF2 断層、
0:41:39	あとDCの関係でのF1B断層、
0:41:45	これ
0:41:46	タテやグループ化するといったグループ、
0:41:50	ところを走っていると、いうことになってて、
0:41:54	断層があるときのその横側からの影響っていうのをどう考えるかと。
0:42:01	いうことで話をさせていただくのかなと思いつつ、
0:42:06	その直近にはデータがないんですね。
0:42:13	Fでいうと、市西側の方について、先ほど話を少し触れられたかと思うんですけど、北川のD6 名N36 だったりと、
0:42:26	いったものまで離れていかないデータが見当たらない。
0:42:31	いうことになってこれについて影響どう考えるんだということ。
0:42:35	D、D種については、そもそも断層を挟んだ領域にはデータが何もないと。
0:42:42	いう状況になってるということなんですけど、このあたりでどう分析するつもりなんですか。
0:42:49	はい。はい。日本原燃のオガセでございます。ちょうどこの資料耐震建物 08 の中でちょっとわかりやすいポンチ絵を作っているつもりなのでちょっとそちらをご紹介しながらご説明したいと思います。220、
0:43:01	7 ページをちょっとご覧いただければと思います。
0:43:10	はい。こちらの図になります。こちらのDCのところとFAのところの断層っていうところ確かにあるところアノ断層の割れ目というところはあるんですけど、
0:43:20	こちらの括弧と括弧Bという右と左で並んでいるところがございますけれども、こういった括弧Aの図にあります通り、断層の右と左宇和盤と下盤でも岩種が明らかにこう変わって切り替わってしまっているような場合これは当然やっぱり速度構造に対する、

0:43:36	影響というところがあり得るだろう建屋直下でというところで、今回いわゆる複数の地盤条件を設定して応答まで振って確認してみるとというところを例えばG14なんかではやっているところでございます。一方で、右側の括弧Bの図にあります通り、
0:43:50	断層が実際あって、割れてはいるんだけど、硬めの間みたいのところ、今ここでは細粒砂岩の例で書いておりますけれども、これがただずれているだけでその中で、何ていうんすかね地質の自体の切りかわりが無いもの、これについてはこの断層の右と左宇和盤と下盤で速度は変わらないというふうに判断できるというふうに考えてございますので、おります。
0:44:10	ので、わざわざ、いわゆる次 14 みたいに複数のコウを使った速度を出して、VSを応答を出してみるというところまではやらずとも問題なかろうというふうなところの検討をしております。
0:44:20	で、先ほどアノコサクさんおっしゃってございましたDCとFのところにある断層というところはまさしくこの括弧Bのところに該当するような地質構造になっておりますので、今回としましてはそれそういうような分析でもって、
0:44:34	速度構造としてこの建屋直下で複数考慮する必要はなかろうというふうな結論で結んでいるところでございます。はい。以上です。
0:44:42	はい、古作です。
0:44:44	本当にそう、こここういう構造になってるかっていうことは、
0:44:49	介護資料とか何なりで、今後説明されるっていう理解でいいですかね。
0:44:55	そのデータがないのにな。うん。
0:44:58	データがないから示されない状態だと、本当っていうしかないの、何らか、こういう構造ですっていう説明
0:45:07	はい。日本原燃のオガセでございます。まず事実関係で言うとこの 08 にはきちんと地質構造まで含めて詳細なデータも込みで書いていますところでございます。会合ではというところでございますけれども、
0:45:19	こういった断層への影響の確認というところで今一番、ドラスティックに変わってしまっているような次 14 のところ、ある意味代表としてトピックとしてご説明してございまして、他のグループFとかデイ・シイとかのところについてはそういうふうなものにはなっていないですという説明にとどまっているところっていうのが事実変えます。ごめんなさい。はい。はい。はい。
0:45:39	前回前々回のヒアリングの会話が成り立ってないんですけど、
0:45:45	代表で説明するっていうんじゃなくて、一つ一つ説明してください。今回どこまで説明するのかは別ですけどっていうことなので、

0:45:52	足りてないものは次回をクリックするだけなんですけど、何か勘違いしてません。
0:46:00	アベノモトでございます。はい。今ちょっと代表なんて言葉使ってしまったんですいませんちょっと誤解されるような話でしたけども、おっしゃっていただいている通り今回は 24 までご説明すると、
0:46:13	残りを、どういうですね道に辿りながら検討すると言ったようなところの結果をお示ししますというようなご説明になると思っておりますので今おっしゃってる通りかというふうに思っております。
0:46:25	ですので今ですねオガセが説明いたしましたこの断層が許可にある場合に、コウですね岩種が変わらない場合といったようなパターンというのはこうなりますというご説明もその次ですね、
0:46:39	グループの中で登場する呉はないかというふうには思っております。以上でございます。
0:46:45	はい。コサクです。そうしたときに、08 には入ってますって言われたので、どちらの場所でもいいですけどこのページ見てくださってというのをお話いただきます。
0:46:58	はい。日本原燃のオガセでございます。今申し上げたようなところというのが、200、
0:47:03	81 ページ。
0:47:06	川名深井内 181 ページをご覧いただければと思います。
0:47:11	ここに図で示しているところございまして今後データを示す会合資料なんかで示す時もこういう絵になると思うんですけども、赤い線の断層がございましてけれどもこれについて、建屋の直下のところで見えたところそういう地質境界に影響を及ぼす断層ではないということが、前の方の文章、
0:47:28	後から後の各グループのところの文章で説明がされているというところになってございます。
0:47:34	文章、はい。
0:47:36	はい。椎野古内なので、
0:47:39	これ担当だからそうだね。はい。
0:47:44	ちょっと、
0:47:49	す。
0:47:53	津野さんさっきのページってどこでしたっけ。
0:47:56	ページ探しますんで少々お待ちください。
0:47:59	アノっていうのは、今言われたやつって断層が直下に見えないんですけど先ほどの絵だと直下にあった。

0:48:09	うん。元オガセです。今、箱崎さんおっしゃってるのは 210、281 ページの図のことでしょ。はい。
0:48:17	はい。281 ページのDC建屋がこの図の左側の端にピンク色の箱があると思うんですけども、これはですね、すいません。
0:48:27	はい。
0:48:28	281 ページの下半分の図ですはい。すいません。はい。すいませんお待たせしてすいません文章のところにつきましては 244 ページに、
0:48:39	あるかな。
0:48:43	ちょっとお待ちください。あれ。
0:48:49	すいません私ごめんなさい 244 ページの 7 ポツ 6 ポツ 2 のところになります建物構築物直下の断層の影響確認の章になります。
0:49:03	244 ページのところとかを熟読すればとは思うのですが、
0:49:11	先ほど、
0:49:12	281 ページの図を見、
0:49:16	ですね、
0:49:21	最初に見てた図わあ、地表面なり、
0:49:25	というのを現れて、ゴトウでの図を示されていて、なので、競争、図ではF一位B断層ということで書かれていて、
0:49:37	かつそれは
0:49:40	断層の両サカイで、断層が違ってませんと。
0:49:46	いう説明になっているんだとは理解をしますが、
0:49:52	この図納付笠野一ノ一。
0:49:56	50 メートルのところに 30 メートルのところでもいいかな。
0:50:01	のところには、SF4 断層があり、そこだと岩種が変わっているっていう絵になってるんですけど、この辺りはどう考えればいい。
0:50:12	うん。はい。日本原燃の緒方でございます。これにつきましてはすみません 245 ページをちょっとご覧いただきたいんですけども、
0:50:21	すみません 281 ページをちょっと見ながらすみません 245 ページを見ていただきたい。で、今古作さんおっしゃったように何かこう、X型ぽく何かこう断層が走っていて、薄は水色と濃い青がこうなんかこうガチャガチャしているように見えるということをおっしゃっているかと思っております。で、
0:50:38	はい。で、先ほど申し上げました通り、違う団地だったら速度が違う、違うだろうというところで複雑な地質構造を考慮する必要があるだろうというところがございますけれども、245 ページのところに書いております通り、こちらのデータに基づきますと、この細粒砂岩と泥岩というこの間の組み合わせにつきましては、その速度境界にならない。

0:50:58	同じぐらいの硬さを有しているがんというところがわかっておりますので、この似たようながんがちょっとガチャガチャしているというところについては応答への影響がないだろうというようなところまでは追っているような、深掘りして検討しているというのが今のこちらになってございます。以上です。
0:51:13	はい。コサクです。わかりました。その辺り、ちょっとこれだとページ側から大分離れているので会合資料では、セットで説明いただけるものと思っております。
0:51:27	もう一つ、
0:51:28	これまでずっと思っていたところを、今頃で申し訳ないんですけど。
0:51:32	これ一、
0:51:34	断面が一どこを取って、これで十分説明できてるのかっていうのが時々わからなくなるんですけど、
0:51:44	どんな考え方でこれ駄目選んでます。
0:51:51	日本原燃のオガセごめんなさい、ちょっと趣旨を掴みかねました断面を選んでいる理由でしたでしょうか。
0:52:01	例えば 279 ページの図なんかでいきますと、
0:52:05	例えば、
0:52:06	何だろう、N-Sの 281 ページでN-S4 番目を呼んでいるんだけど、その断面を選んでいる理由は何かと言うそそういうような意味合いでよかったですでしょうか。
0:52:20	んとコサクです。何を確認したいのかがわからないので、
0:52:24	そうですとも何とも言いづらいんですけど、
0:52:29	とりあえず回答してみてもらいます。
0:52:44	難しいな。
0:52:46	279 ページ 2 アノ式ちい。
0:52:50	の水平平面図があり、
0:52:54	断層があって、この断面それぞれ示していきますというようなことで、この図だけ見ると事細かに引いているようには見えるんですけど、
0:53:08	と実際に次のページ以降見る等、結構飛び飛びの断面で示されてるかのように見え、
0:53:15	なんでここだけで、全体が把握できてるのっていう気もすると、いうことなん。
0:53:23	ですけど、
0:53:26	はい。日本原燃のオガセでございます。基本的にこちらで平面図上は 279 ページのところでは断面をいっぱい書いているところでございますけれども、

0:53:39	実際次のページ以降で書いている断面しかり、あと考察で用いる断面という時には、その建屋の直下を通ってる断面に着目したところだけを抜いているところがありますのでちょっと結果飛び飛びになっているような、
0:53:53	そういうようなものになっているというそういう背弧ドイで作っております。
0:54:00	コサクです。そうした時にですね、直下だけだと周辺っていうのをちゃんと拾い切れてるかというところがあって、
0:54:11	直接は直下じゃなくても横野断層で影響を受けているというデータを1回示された後、
0:54:17	これだけで十分か。
0:54:19	ちゃんと周辺考えられ、考え切れているかっていうことの説明としてどうかっていうことなんですけど。
0:54:25	はい。日本原燃のオガセでございますそういう意味では、今この東西断面でいけばさっきの281ページみたいなところで東西方向の広がりを持つての確認をしているのと、あと当然直交方向のNS方向も見ていて、
0:54:41	ある程度広がりを持ったところで断層も赤線を引いたりとかってというような前提のところを見ているので、ある意味、何ていうんすかね。結構広い視野で見ているというか、やはりそういう検討はしているのかなと思っております。
0:54:55	はい。補足です。そこら辺文章でもちゃんと表し切れてますかね。
0:55:03	日本原燃オガセです。正直文章ではそこまでのことは書いていないので。そうですね。ちょっと北井の方は拡充できると思います。以上です。はい、そうです。お願いします。
0:55:15	岸野さんお願いします。
0:55:26	規制庁の木曾です。
0:55:29	ちょっと今のやりとりの中でちょっと1点だけ教えていただきたいと思えますね。227ページのもって、断層を挟んで岩種分布が、
0:55:41	キムラの場合と同様である場合の考え方っていう説明されていて、
0:55:45	ルート
0:55:46	文書ループが同様である場合はVsも同じとみなせるんでっていうご説明だったんですけども、
0:55:52	これって、もう一般的にそう見ちゃっていい考えなのでしょうか。
0:55:59	同じ会社でも断層を挟んで、上に上がったりに下にオリタものだったりとか、拘束圧が変わってたりとかしてですね、VSって変化しないのかなっていうところに、

0:56:10	あったり、これはちょっと私が正解を持つてるって意味ではなくって、こういったものの扱いについて、社外支援者の方専門家の方たはどういうふうに言われてるのかっていうのをちょっと教えていただいていいですか。
0:56:25	はい。日本原燃のオガセでございます。すいません社外支援者の方とかにもいろいろ当然ご支援というか検討に入っていたいただいて、やっているところでございますけれどもこういう願みみたいな固いもの、ございますとあとはその実際PS検層とか見てみても、細粒砂岩と泥岩っていうところにつきましては、
0:56:42	それに来そうなアイデアノ速度境界がドバーツとこうなんかどンドン使ったり損的に出てくるようなものではないというところが、このデータとかから見ておりますおりますので、その左右性の中で、多少前後、前後というか上限言われたところでそれは速度構造自体にコウ。
0:56:56	ギャップが出るようなものにはならんだろうというようなところがありますのでそういったところを確認しながら当然その速度境界を新たに入れるべきか入れないべきかというところは判断しながらやっているところでございます。
0:57:07	社長です。はい、わかりました。実際に断層を挟んで同じ外周分布のそれぞれのデータを持っていて、D、Aと比較したところは大きな違いはないから同じとみなせるよねっていう裏付けを持っていると。
0:57:21	いうことであるならば、そういった説明を、この当該ページですね、加えておいていただいた方がいいかなと思うんですけどそれはできそうですけど、日本原燃疇津アノそうですよねすいません今そこまで書いてなかったのはい加来様にいたします。以上です。
0:57:37	はい。規制庁の岸野です。お願いします。
0:57:40	あと、すいませんあと1点だけ軽微の確認なんですけど、
0:57:44	丹生君。
0:57:46	11 ペイジー
0:57:48	をお願いしたいんですが。
0:57:51	四角含みで44グループの物性値の設定は随時ってなってますけども、
0:57:58	クドウ、
0:57:59	この後ろの方ですね。
0:58:01	参考の4でしたっけ、329ページ以降で、赤字事業については追加調査データを使った、物性値をせ、
0:58:11	何か説明をされてるような気もするんですが、これはまだ未完成で、今後まだ検討が追加されるという意味で書かれているんでしょうか。

0:58:23	はい日本原燃のオガセでございます今岸野さんおっしゃいました通り速度のところの観点では 300、20 何ページぐらいに書いているところでやっている通りで、フィックスしているんで結果あれですね断層による影響というところが多少あるので、
0:58:38	何でしょう複数のVSをちゃんと見てあげなきゃというところが結論になると思ってます。この章のところで書いていたところのこの口の意味は、三つのところがちょっとまだできていないっていうところの話があったのでまだ埋まり切ってないですよという意味で書いたところの意味合いでございました。以上です。
0:58:53	規制庁の岸野です。はい、わかりましたじゃちょっとこの記載があまり正確じゃなくて、追加調査でPS検層を用いた検討を実施してその検討結果内野理事って書いてあるんですけど、
0:59:04	密度がつい三つを用いた検討が随時かそういうことで、
0:59:09	日本原燃オガセですおっしゃる通りですねちょっとガバツと書いてしまいましたのはきちんと丁寧に書きます。
0:59:15	はい、わかりました。私の確認は以上になります。
0:59:23	はい。規制庁深見です。他、資料 1、別紙 2 の位置関係ありますか。
0:59:32	芸能です。ちょっとよろしいですか。
0:59:35	戻ってしまって申し訳ないんですけどもさっきちょっと説明してる中で、ちょっと説明がちょっと 2 人でいないなど。
0:59:45	思いながら私ちょっと聞きながらちょっと久慈横浜とちょっと言ってしまったんですけども、先ほどですねミギタテヤノアノチョッカーのオガセによる切替わりの影響のところの、
0:59:59	ご説明差し上げたときに、この断層切つてトガシフカワないところはこの速度構造を変えないということで宮下検討になっているといったところの、具体的な検討を 244 ページに示しているといったようなところを、も説明していましたんで、
1:00:15	ここでちょっともう一つご説明しないといけないのはこの直感について、えっとですね眼鏡が立っているところについては、これ、影響評価はこのPCタテについては行っておりまして、ですね、それがやっておりますのが 340 ページからでございます、
1:00:32	例えば 341 ページ 372 ページのところ、それから 343 ページ、4 ページというふうにご覧いただきますとそれぞれのですね、イシイダテヤノ東西南北の萩野ですね速度構造を推定いたしまして評価、
1:00:49	といいますか、砲塔がどうなるかという、評価を行いましてここで提示してるといったようなところまでここはやっている建屋になっております。ち

	よつと最後までご説明ができなくてちょっと誤解与えた理解があるなど思 いましてすいません。
1:01:04	ウチヤマていただきました。以上です。
1:01:10	規制庁浜崎です。今の沼尾さんの資料を見てましてですね、例えばDC 建屋ですと、
1:01:19	347 ページのスペクトルの比較で、今、イシイグループで設定した物性 値が一番一次固有周期のところLowを中心にですね、上回ってるから、
1:01:30	文章が書いてあるのが、東西南北どの
1:01:35	直下の物性値とっても、同等であるっていう物性表現が書かれてるんで すけども、
1:01:41	他のグループもいくつかのグループやられてですね日々かな。
1:01:46	書かれてるんですけども、
1:01:48	同等である同等であるって書いてあるんですが、
1:01:51	前回、以前ヒアリングでですね、一次固有建屋の連成系一次の振動数 だけでいいんですかっていうことに対して今これ、反映されてなくて、
1:02:02	確か三重かなんかのところだとかなり工事で逆転現象が出てるような ところがあります。
1:02:08	そ、その辺りの対応っていうのはまだこの資料をされてないというふう に見ているんですけども、要はその一次だけで本当に満足、十分なのか どうかって説明なんですけども。
1:02:19	それは、どうなのでしょう。今後、そういった視点で、この資料、
1:02:25	このサンポー4 を変えられるんでしょうか。それともこれが最終形なん でしょうか。
1:02:30	玄能登でございます。はい。これは意見はありません。江藤。今おっしや っていただいている通り、いただいているコメントに基づく検討及び資料の 反映がここまでできていないところでございます。
1:02:42	はい。規制庁浜崎です。はい。認識理解しました大きな結果に対しての 結論に対する影響だと思んですが幾つかのグループに関しては、ちょ っと要注意のところがあるというふうにご理解してますんで、
1:02:55	リバイスの方お願いしたいと思います。以上です。
1:02:59	はい。以前のことで承知いたしました。
1:03:07	ろう規制庁カミデイセオカなければ、
1:03:10	私からちょっと確認です。195 ページで、
1:03:16	aイシイタテアノ、
1:03:20	基本地盤まで今基本地盤もできるのかな。
1:03:23	と許可の比較があって、
1:03:30	これが、

1:03:32	どう同じなのかどうなのかっていうのが、どう考えていいのかなっていう等、
1:03:39	194 ページですか。
1:03:43	大体近いですが、大体近い傾向ですって言ってますけど、何かもうちょっと説明できないですかね。
1:03:52	うん。日本原燃の緒方でございますこちらにつきましてはこの目的として、あれですねそのPS検層データ、しっかり設定している地盤みたいなどころが、
1:04:04	許可で物で、許可で取ってる物性というのはつまり岩種ごとの平均値場所によらず側の仕事の平均値になっておりますがそれからどれくらい離れてるかを見ていくんで、当然場所場所の話なので多少離れているのは当然、その場所の特徴として、
1:04:20	受け入れていくんですけれども、余りにも変な同じ岩種等に全く違う値が取れてないかというようなところの観点ぐらいで見ているので、あまりこう外れていたら何かをはじくというようなそういうような概念では書いていませんでした。
1:04:32	なので、ある意味何つうかね平均的的な特徴に近いというのはある意味この許可物性値のバンドの中の何ですかね、今、プラマイワンシグマっていうと微妙かもしれないですけどそういう範囲内に入るようなノーマルなところの、
1:04:45	特徴を有している速度になっているというようなそれぐらいの。はい。位置付けの言葉になるかなと思いました。以上です。
1:04:53	はい。規制庁網です。まず前段として、
1:04:58	データパツと出してこうなってますじゃなくて、どういう目的で、データを見ますというのが先ほど岩種ごとの傾向と言っていましたけどそういうのを見るためにやるんだと言って、
1:05:09	その目的に対して問題コーナーこういう結果だから問題ないですっていう説明をしてもらえればと思います。で、
1:05:19	あれなんですかね。
1:05:21	この許可の場合は傾斜がついてますけどこの辺の説明はまた別に特化してありましたっけ。
1:05:30	日本原燃のガスでございますすみません順番に行きますまず目的書いてそれに対しての形、傾向というかそういうのを書くというのは拝承です。了解です。よく物性値がこういうふうに傾斜ついてるかというところについては今現状説明書いていないので、
1:05:49	このもっと前の各グループに入る前のところですかね、やることの流れを書くときに許可の時にはそういう物性値を統計的に整理して深さ依存

	を考慮しているものでやってるがそれとの乖離状況というか合い具合と このを見るというような目的のところとそこをそういったところを変えていき たいと思っております。以上です。
1:06:10	はい、規制庁可決わかりました考えを示しておいてください。
1:06:15	ちなみに、なんかいつもG14 はちょっと数字はあれなんであんまり、
1:06:21	ことさら言ってもっていう気はするんですが、214 ページなんかだと、大 分暴れちゃってですねやっぱり 14 だと、それでも目的に、
1:06:31	即したデータを取れたって感じなんですか。
1:06:35	はい日本原燃のオガセでございます。これは実際取った結果としてこう いうふうに許可の平均物に対して小さい方に行っているというのが実態 なのでございましてこれがちゃんとしたデータがとれていないのかとい うとそれはちょっと、
1:06:49	そうは言えないのかなと思っております。この地盤の特徴なりの物性 が取れていると我々は見るといふふうに考えております。ですのでこの 結論は、44 っていうのは
1:07:00	ちょっとこのエリアについては、敷地内の平均的なものよりもちょっとや わらかい傾向を示すというようなそういう分析結果というかデータの確 認結果が結論になるのかなと思っております。以上です。
1:07:13	はい、規制庁亀井です。その辺もまだ 213 ページだと、まあ、ここだけ じゃないんですけどあのグラフ読んだ結果だけ書いてあって、だから設計 上どうなんだとか目的を果たしてるかっていうところが、
1:07:28	全般かけてないところかなと思いますので明確してもらうように願 いします。
1:07:36	はい。日本原燃オガセですはい、おっしゃる通りだと思いますのではい 他のところも含めてはい。目的を持って比較しているところはその目的 とそれに適合してその目的が変わってるかなって何かそのまま使うか みたいなところを、はい。結論として書くようにいたします。
1:07:52	はい、規制庁か水間アノ、1 年ぐらい言い続けるような気もしますがよろ しく願います。
1:07:58	岡部氏、新野一井で確認ありますか。
1:08:03	小阪ですけど、
1:08:05	蛇足にはなるんですけど、どうも尾形さんがその使うか使わないかとい ったところにちょっと反応してしまいまして、
1:08:13	今のやりとりからするとその許可の平均的なあで一たとの比較というの は使う使わないの判断としてやってることじゃないと思うんですけど。
1:08:26	どうなんでしょう。

1:08:31	はい日本原燃のオガセですなんで、すみません先ほどもちょっと、すみません同じ口で言ったところかもしれないんですが、この
1:08:38	とれたデータというのは敷地全体の平均に対してこういう特徴を有しているというところが早野分析の分析というか、データを見た結果、結論になるかと思っておりますので、余りにも何か公開したらデータ自体がおかしいというようなところの疑いになりますけれども基本的にはその場所の特徴としての整理というような、
1:08:55	認識ではおりますそのつもりで話はしておりました。以上です。
1:09:00	はい。なので、この比較のする目的っていうのを、
1:09:05	言われる通りですけど、ちゃんとぶれないようにしていただいて、説明をしてください。よろしくお願いします。
1:09:14	はい。日本原燃尾鷲ですかしこまりました。
1:09:21	はい。規制庁上出です。オカ別紙 2-1 関係はよろしいですかね。
1:09:27	なければ次、別紙 2 の 2 の非線形ですけど、これはいつもあんまりないんですが、多分あるかといいますか。
1:09:43	はい、規制庁カミデす特にないですかねなければ、減衰のところ別紙 2-3 で確認があればお願いします。
1:10:00	清町の岸野です。
1:10:04	私からは 2 点ほどなんですけど、まず、476 ペイジーをちょっと見ていただきたくて、
1:10:14	これ、中ほどにですね、下線が引っ張ってる文章の中ほど、
1:10:20	上から 3 パラグラフ目ぐらいの 4 行目ですね。
1:10:23	まずはこれらSUMエリア単位で確認を行ったっていう説明があるんですけど。
1:10:29	ここのくだりの説明はこの 3 エリア単位での評価で完結していて、
1:10:35	まずはということなんでこの後、さらにエリアというかグループを細かく見ていったりと、さあするような評価が入るのかなと思ったんですけど結局説明がないのかもしれない。
1:10:45	これは単なる言葉のハヤマがこの後さらにその次のステップとして何か検討を考えているのかって言ったらそれはどちら。
1:10:53	日本原燃のオガセでございます。ちょっとすみませんこれ私の日本語がよくなかったかもしれません。今ここのまず、これが 3 エリア単位でというのは、
1:11:04	3 エリアの中でのデータの、何て言うんでしょう相関性みたいなところだから、中央地盤なら中央地盤のエリアの中で、アノかたければ減衰が大きいとか小さいとかっていうようなところを分析しようという意味で書きました

	たんで、その次にやったのは、3 エリアを跨いだ縁VS中央みたいなところの相対的な比較っていう
1:11:24	横の比較ですね、そういうのを第 2、
1:11:27	フェーズとしてやったっていうようなイメージで書いております。それが 476 ページの下から 26 行目のところですね、ここで切り替わってるっていうイメージです。はい。
1:11:39	だからこの次の前がエリアの中での相対比較、次により先がエリア関連の比較という、そういう二つのアノわけであります。以上です。
1:11:50	はい。規制庁の長です。わかりました。そういう趣旨で書かれているという。
1:11:54	理解しました。
1:11:56	あともう 1 点なんですけれども、657 ページお願いします。
1:12:07	東側地盤について、このページの一番下の下線の部分から 4 次のページにかけて、追加調査結果の説明が、
1:12:19	されているんですけれども、
1:12:21	ここで参照している第 7 ポツ 1 ポツ 1-3 図っていうんですかね。
1:12:29	見る等、
1:12:33	と中央や西側と違って、
1:12:36	S分検層と観測記録との乖離ってのは結構いいなあというふうに、
1:12:42	思いますし、あと地震観測記録のリニア型等エザワ検層と比較すると、その周波数特性の傾きが異なるものもあってですね。
1:12:54	推定自体はリニューアルの梅林の方に近いような、に見えるんですけど、
1:13:00	この 658 ページの説明って休養間中央とかニシノの説明をそのまま持ってきちゃって、何かヒガシの特徴ってあんまりちゃんと言ってないような気も。
1:13:11	するんですが、この辺り、元ってどういう評価をしてるんですか。
1:13:15	はい。日本原燃のオガセでございますまさしくこの辺の分析を、いわゆる有識者の方々とちょっとすいません顔を突き合わせて、
1:13:23	やったところなんです、今ちょっと岸野さんがおっしゃってたところ、659 ページの傾斜の予想が違うかもというようなところをおっしゃってたのは、ちょっと例えばですけど 659 ページでちょっと線がいっぱいあって見にくいかもしれないんですが、水色の線で、ちょっと
1:13:40	何ですかね、始めるといいますかちょっと上に凸みたいなのところに行っているような、

1:13:45	線なんかをご覧になっているのかなというふうに思ってますんでグレーの線も、これもちょっと上に凸になっているような傾向になっているんですけども、実際減衰定数の傾向となれば
1:13:55	木野さんが先ほどもお話になられたようなバイリニアみたいな形ですね、どっちかっていうと下に凸のような傾向を示すのが普通であります。一方で個々のデータでそうになっておりませんので、
1:14:08	深沢井戸のところの上と下土地みたいなところについてはそこまでのどうしても精度といいますかそういうところはないのかなというふうに考えておりました、あくまで
1:14:18	何ですかね全体的に見たときの傾きみたいなところで見るときには十分これは今出ているリニア型の地震観測の同定結果に近いといえるだろうと。
1:14:28	というようなところの判断をいたしましてこちらの考察では、深さ依存性じゃないすいません周波数依存性の傾きについては、同じと見てよかろうというようなところで話をさせていただいたところ、書かせていただいているところでございます。また一方でこの東側地盤というのは、いわゆるの構成岩種なんかも結構同じ当然中オオニシヒガシそれぞれ、
1:14:48	ナカ全部一緒なんですけれども、構成会社も同じですので、基本的にこれらっていうのは同じような結果が出られていると、見てもよかろうというところで大体今今回、
1:14:59	5かな、データゴコウ並べておりますけれども大体同じような束として見たときに、同じような周波数特性を見る見ミイれているだろうというようなところの考察も可能だろうというところで、すいません結論一緒ですが、こういうふうな記載にさせていただいて、
1:15:13	でございます。で、ちょっとこの大小関係の方につきましては、ちょっとすいません考察はすいません引き続きもしているところではあるんですけども、やはり、
1:15:24	ちょっとはいすいません実際に地震観測員でやっているところも、それではちょっと見れないようなところの傾向みたいな道路が実測値が出ていて、実態はやっぱりちょっと大きいのかもしれないなというところのすいませんそういうところの事実関係の整理ぐらいでちょっと止まっている中、
1:15:40	その要因の細かいところの分析というのはちょっと難しいなというようなところが今の実情でございます。以上です。
1:15:48	成長のキシノです。傾きについては何となくそういうお考えなんだなというのは理解できたんですけど。

1:15:55	泉検層とその観測記録との乖離についてはちょっと分析難しいなっていうところにまとまってるんだなっていう理解しました。観測記録のリニアバイリニアっていうのは、もうすでに会合で説明があったようにヒガシが上、デマチ版って、断層を挟んでちょっとなかなかややこしいところで、
1:16:12	というところでいろいろと工夫をされてこの結果がえられてるんだと理解したんですね。
1:16:17	一方その他のエザワ検層っていうのは、そういった、何だろう、特徴際立った特徴っていうのを持っていないので、大体この観測記録の上側のところのところ一文を出してるんだっていうようなことなのかもしれないなっていう。
1:16:31	何も見れるんですけど、何かそういった観点で、こんだけ乖離があるってのは何だろうなっていう評価を、社外支援者の方も含めてどういった考えが出てくるのか教えていただけませんか。もう少し、
1:16:44	日本原燃のオガセでございますまさしく今岸野さんがおっしゃったところが検討の肝でした結局このエザワ検査をやっている場所と今回この地震観測で、記録に合わせてやったところの一番大きい違いというのがまさしく今岸野さんおっしゃった断層による影響みたいなところを地震観測のところでやったというようなところ。
1:17:02	お話があったと思いますのでそこに何かしらの差があるんじゃないかというところを考えた次第つまり建物のあるところについては先ほど言ったような断層による地震観測のところにあるような影響みたいなのがここだと、がっとう上がってきているような傾向だったりするんですけども、
1:17:18	そういったものはありませんので、やはりいわゆるがんの中でも表層部分の層が厚いとか、みたいなのところ、あとはちょっと
1:17:26	目線を広げてあげれば実際の確か考察のところにも書いておりましたけれども岩種として、いわゆる家火山性のちょっと軽石っぽいようなやつですけどそういうちょっと見られたような岩盤がちょっと厚くなっているのがちょっと観測地点の
1:17:40	断層で傘丸が上がってきているところとやっぱタテのところの状況が違いうだろうということもあるのでそういう定性的な意味で、やっぱり実態の実態の建屋が建ってる場所については観測地点よりも低くあーじゃない。
1:17:53	減衰が大きくなっていてもおかしくないなというような排水はちょっと定性的な考察はしているところでございます。以上です。
1:18:01	小貫です。はい。そういった話は社内に出てるんだけど、
1:18:06	説明にはないっていうことですよ。

1:18:10	はい。日本原燃オガセすいませんここは、正直すいません若干ingで、書ききれてなかったところなので今後すいません書き出したいなと思っ ているところでございます。まだちょっと分析が追いついてないところがある って冒頭、沼尾さん仰ってました。そういったところが、
1:18:26	まだちょっと検討ナカゾノところもあるのでこのあたりは今後充実してい きますということかなと理解しました。で、658 ページに、まだそこら辺が 書き足りていない文章があるんですけど、
1:18:39	下から2 パラグラフのところの説明が、何かいろいろと変えれば、おっき いんだけど、地震観測記録よりも、
1:18:49	S波件数はおっきい、だから、地震観測記録に基づく同定結果で代表す ればいいんです。
1:18:55	これはどういう意味なんですか。これは設計の話踏み込んでるっていう ことなんでしょうか。日本原燃のオガセでございます。ここはすみません そう見られても確におかしくないですね。で、
1:19:07	あくまですみませんちょっと今すみませんingと言ったのは今先ほど私 が申し上げた分析結果なんかもちょっと入っていないというところが実 際ある考察もあるというところですのでそれ踏まえますと、やはり
1:19:19	このデータに基づいて各地点の実測値としてはやはりちょっと大きく出 ていてこれはこうこうこういう理由です、理由だと考えられるというところ までで止めてあげて、あくまでここでこうなんかちっちゃいから代表みた いなところの話はちょっとすべきじゃないなと思いましたのでこれはちょ っと、
1:19:35	この章からはちょっと消す方向で改めたいと思っております。はい。以上 です。
1:19:41	規制庁の岸です。はい、わかりました。多分この技術ってのはおそらく 設計を踏まえた場合の分析だったのでその次のステップでやることとい うことでこっから外そうし、
1:19:54	おっしゃったように理解しました。
1:19:58	ということでよければですね、私から確認は以上になる。
1:20:01	日本原燃の大賀先生のおっしゃる通りのご認識でございますはい。
1:20:06	あと、規制庁カミデですけど、関連して、
1:20:09	659 ページの話ありましたけど、
1:20:13	S波の結果だけ見ると、中オオニシ、ヒガシ1 オオニシ等、
1:20:20	このヒガシがそこまで乖離はしてない。やはり監査記録の
1:20:28	青だったり緑点線が一AIDS下に下がってるなっていう印象は受入れる んです。そうすると、

1:20:39	観測記録のアノモデルがまだしっくりきてないのかなという気もするんですけど、やはり専門家の人たちも含めてこの青何緑が、
1:20:51	確からし過労っていうそういう考察になってるんですか。
1:20:56	はい。日本原燃のオガセでございます。はい。ちょっと、正直そういう話もありましたあまりこう監督とて自体を否定することもいつもそういう話も実際ありました。
1:21:06	おっしゃる通りでカミデさんが先ほどDたの比較のご見解おっしゃっていただいた通り、アノエザワ検層の結果というのは中オオニシヒガシで、多少の大小はあれども基本的に1まとまりになっているいわゆる敷地内で結構
1:21:21	1まとまりな、全体見てミシマ泊になっているというところでこれというのは、何ていうん兼子岩盤の、
1:21:27	減衰っていうところの一般的な感覚からいうとかなりやはり専門家の方々も近い、どこでとってそんなにそんなにバラバラするものではないというところでございます。一方でその地震観測のところではちょっと中央に比べて西ヒガシが、
1:21:41	ちょっとちっちゃくて、結果として、エザワ検層よりもちょっと下になっているように見えてしまっているんですけども、先ほど申しました1次元でやる時にアノニシノヒガシっていうのは地質を、
1:21:52	ちょっと調整してやっているところがありますのでそれをやるときに、どうしても伝達関数のフィットする時に1次元波動論を仮定している中で、ひずみとかゆがみとかそういうものがちょっと出てしまった結果としてちょっとツツミに出たという側面も、
1:22:07	否定はできないなというのははい正直あったところでございます。以上です。
1:22:13	と規制庁ヶ月で、今回の会合においてはヒガシの減衰は、as-is実態としてはこの辺だっというところまで説明はあるんですかね。
1:22:31	はい。日本原燃の大橋でございます。今すみませんこれから出す資料の話になってしまうところなんですけれども、幾つの数字でどこの斜め線みたいなもしくはまっすぐ線みたいなところまではちょっと言い切れないうにしても、地震観測記録に基づく同定結果と各地点のS検層に基づくものを、
1:22:49	から、を踏まえた値にすべきだというような、すいませんちょっと定性的な結論で書かせていただいております。以上です。
1:23:00	はい。規制庁甲斐ですその辺は支社のヒアリングで話しすればいいと思いますけど聞いた感じだと、はっきりしといた方が、会合できちんと議論ができるのかなと思いますんで、それはまた明日の収集ですか。

1:23:14	で、
1:23:15	同じような話で 653 ページで、今度、中央地盤ですけど、中央自慢だと、a. 中継点 1 秒以降のところではピンクの線がコウんねてる感じになってるんですけど、これって、
1:23:31	人は干渉を野瀬んですか。日本原燃の大松です。すみませんおっしゃる通り自身は探傷コウノ先月ちょっと色がダブったので、見やすいようにいたします。
1:23:44	はい。規制庁深見ですね。
1:23:46	これって、何かある程度のところで頭打ちになってますよってということなんですけど、一方でリニアとかは、そのまま改装して引っ張ってますけど、この辺の件。
1:23:58	見解ってというのは資料で説明されてますか。
1:24:02	はい。日本原燃合わせですアノしていました。基本的にこちらの、何ですかね、地震干渉法というところにつきましては、実際今回使ったデコンボリューションはKと言われる間葉系を統計処理したものが、周波数として
1:24:17	白根周期が周期で 0.1 秒ぐらいのところでは大きなピークが立つようなデコンボリューションは形で、その辺については非常によくいい精度の減衰定数がえられているだろうというようなところの
1:24:30	考察は書かせていただいております。ただ一方で普通に見られるような周波数依存性はやっぱりその 0.1 秒ぐらいしかが、大きくは見えるのでそれ以外のところはそれほど見えないだろうというところを、
1:24:42	書いておまして、どこ、主ちょっと図は 634 ページ。
1:24:53	分子老婆。
1:25:01	中央もっと前か。
1:25:09	と、
1:25:14	例えば、
1:25:17	すみません。
1:25:24	結構、
1:25:26	あとやっぱ、
1:25:29	でしょ。
1:25:34	あ、すみませんお待たせいたします。
1:25:38	一旦、646 ページですね。
1:25:44	はい。ここで、2 段落目から、
1:25:49	先ほどの 5 から 7%の数字と書いていますがそこに、種ハツイゾン特性が普通に見られるはずのものが見れないというところになってはいますが

	その理由としては、ちょっとその表層みたいなどころの影響の違いによる影響を受けたためであろうと考えられることタダ。
1:26:04	0.1 秒の先ほど申し上げたパルスのところは数字はよかろうというようなところの考察は書かせていただいております以上です。
1:26:15	はい、規制庁カミデセガワカバシマその説明とあわせて見て 0.1 秒ぐらいのところをまず見て、まあそんなに、そんなについて感じですねという感じだと。
1:26:26	いう主張だと、とりあえず理解しました。はい。
1:26:31	他、規制庁側から別紙の 3 に関してありますか。
1:26:36	はい、施設ハバサキです。今出てる話になった 653 でもいいんですけども、
1:26:44	先ほどアノキシノアノ仕事なんですけど、あとその地震干渉にしても減衰のメカニズムとして、周波数依存は持っていくそうだとところで、ただ、
1:26:55	短周期のところは、フラットになる可能性があるというところで、先ほどの自社干渉法に関しては、表層等の影響でその傾向が見られない。
1:27:08	もっと短周期まで継続できれば、もう少し減少傾向も見られたというふうに、
1:27:15	推察はできるんですけども、一方ですねPS検層明らかに短周期のところは左下がりの傾向になってますよねいわゆる欧州ハツイゾンの
1:27:26	形になってるということで、
1:27:28	ちょっといわゆるルー、0.1 秒と言われているような、分岐点から、短周期に関しては一定という簿傾向等、
1:27:39	ちょっとPS検層傾向が違うなというところですね、そこは総合的に、次のステップでも、基準、
1:27:50	基盤モデルを作るときにですね、こちら辺の減衰に関してのコメントがないんですけども周波数依存のところですね短周期の、
1:28:00	資料中にも記載がないんですけども、その辺り今原燃としてどう考えているか何か、現時点で意見があれば聞きたいんですけども。
1:28:09	はい。日本原燃の大橋でございます。今たまたま 653 ページをご覧くださいましてここでいかせていただきます。実際我々地震観測に基づくバイリニア型っていうところを仮定した時には、いろんな知見で大体 10Hz0.1 秒のところ、
1:28:26	折れるよねというところの、
1:28:29	経験則みたいなどころを踏まえてそこで追っているというようなところですが、実際にエザワ件数をとって見た感じ、そこまでこうなんです急に、やっぱり一律にフラットになるという結論はあまり出てこない。やっ

	ぱり 0.02 秒とか 0.01 秒近くになってもちょっと落ち続けてるようなりニアになるような傾向というのは出ていると。
1:28:48	いうところでございます。これを、ちょっとこのグラフの中でオレンジの帯で書いている材料減衰の帯を書いていますけれども、これ中は中央地盤の構成岩種なんで、細粒砂岩とか泥岩とかの、
1:29:00	線形状態の材料減衰ですね、線形状態なので小さいところですけどもそこにコウと比べてみると、やっぱりその辺の減衰は 0.0G から 0.02 の間ぐらい見るところですので、普通に考えればその頭打ちというのは材料減衰のところになると思いますので、
1:29:17	これで見えますと大体このエザワ検層でいっても、0.02 秒とかそれぐらいのところになんないと差しかからないので、折れるとしたらその辺かなという意味から逆に言うと 0.02 秒璃咲につきましては若干高周波II。
1:29:31	依存卓越型なのかなあというふうなそういうような、この材料減衰との比較をしての結論というのは文章の中でも書いているつもりでございますた。
1:29:40	一方で今後の先ほどハバサキさんもおっしゃってた今後モデルを作る時の考えとしていうところにちょっと踏み込んだ発言を今後の話野瀬にさせていたくんですけど、これはあくまでやっぱり地震観測記録しかリエザワ検層というすごい小さい振幅レベルの地震でございまして、
1:29:56	本当ならもっと我々 Ss で設計するっていうようなところになっていくと非線形が伸びてくると。そうすると、ここのボトムの数値なんかもどんどんどんどん本当は上がってくる話があるのでこのまま使うというのもちょっとあやしいですよというところの話はあの有識者も有識者さんも込みで、
1:30:11	話をしているところでございます。そのフラグについては、今のところ非線形に関する分析のところというところ
1:30:19	どっかな、668 ページとかのカラーのところ、今書いているところでございます、ちょっとこの辺の結果踏まえて、具体的にどれぐらいの
1:30:29	頭打ちになるのかあくまでこういうちっちゃい振幅の調査だとこういうふうに、ずるずるとごく短周期までリニア傾向だったんですけども、
1:30:38	本当だったらどれぐらい、バイリニアぐらいになってくるのかなというところを分析すべきだろうというところはいはい今後の設計に使う数字を考えるフェーズでは必要だなというふうなところで、はい認識をしているところでございます。以上です。
1:30:51	はい。規制庁浜崎ですちょっと差聞いの、
1:30:56	小限界も含めての、ちょっと質問だったんで今後、

1:31:01	その内容については、確認していきたいと思いますので、今回追加調査をしてですね冒頭
1:31:09	野坂説明がありましたけれども、481 ページにありましたように東西中央の追加調査あくまでも追加調査ですけども、
1:31:19	Vsの深さオクノ傾向ですねあと、東西中央での傾向、西が一番小さくて中を比較的深さ依存がなくて、
1:31:29	ヒガシは結構ばらついて深さ依存が見られるとかですね、減衰の傾向についても東西中央それぞれ特徴的なものを傾向があるということがわかったということで、非常に
1:31:41	わかりやすくなったと思ってます。ただ、今後の基本千葉モデルを作っていく上で、次のステップですねこれ料理しないといけないわけですけども、
1:31:52	先ほど大庭さんの言われたようなひずみレベルでの評価っていうのを、評価というかな考えも一つの考えだと思います。ただそうすると、SDとSsの、
1:32:03	下水道センターみたいな話にもなりかねないんですね、そこら辺今後ですね基本地盤モデルを考える上での減衰なり、モデルのお考えということで説明してもらえばと思ってます。
1:32:17	一応、
1:32:19	減衰のところについては、追加についてもいくつか記載が、
1:32:26	拡充されてるというふうに理解されてしてますけれども、
1:32:29	これ何度も言いますけどこういうアプローチっていうのは初めて、ある意味初めてですのでですね、設計用地盤モデルの設定の観点では、
1:32:37	詳細に、なおかつ、丁寧に説明をしてもらいたいと思ってます
1:32:43	こちらで推測するのではなくてですねきちんとその説明を仕切ってもらいたいというふうに思ってますので今後よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。
1:32:54	はい。神野でございます。ありがとうございます承知いたしました。
1:33:01	あ、規制庁カミデですけど、今映ってる 481 ページのところ、ちょっと私は事前にしっかり読めてなくてあれなんですけど、
1:33:11	これであれなんすけど中オオヒガシニシノけ硬さの傾向が、これ、大体わかってきました。そういうことなんですか。
1:33:20	私は、はい。大町さんすいません。
1:33:24	どうぞ。
1:33:25	はい。私でよろしいですか。はい。日本原燃オガセです。こちらにつきましては、硬さの傾向自体はこれPS検層タダ並べたものですので、これに見て通りで、このPS検層のデータを重ねた通り、

1:33:37	青で言う東側地盤はちょっと上下のインピーダンスがでかい地盤、赤と緑の中央とヒガシはどちらも中出のインピーダンスコントラストはないんですけども中央の方がどっちかという硬い西側が、
1:33:49	やわらかいこれデータからえられてる傾向でございます。これと下の減衰定数の上下関係が矛盾しないというところの話を 476 ページで書いているというそういうようなイメージです。
1:34:04	はい。規制庁加茂です。
1:34:06	VSの傾向からする等、
1:34:10	西側が一番左側だからやわらかくてと思うと、下の減衰も、緑が一番下で、赤と青が同じぐらい、もしくは
1:34:23	青がちょっとやわらかいぐらいになるのかなと思ったんですけど、この対応関係は問題なさそうなので、
1:34:30	はい。日本原燃のオガセでございます。一般的なイメージなんですけれども、やわらかいほど減衰が大きくて、硬いほど減衰が小さいだと思いますので、まず、赤と緑を減衰定数比べますと、
1:34:44	赤の帯に対して緑が赤の上なぞりしてるぐらいでおっきい方に言ってますので、この堅いやわらかいの観点からいくと、その赤と緑中央と西につきましては
1:34:54	傾向が、一般的な考えと合ってるなというようにところで一方で、青というところを見てみますと、青で基本的にはかたいかやわらかいまで結構いろいろとあるというところの地盤になっているというのが上の図から見れるということになっておりまして、やはり途中の層で高速度の切りかわりがあったりいわゆる反射面みたいなのところがあったり必要なサンナンみたい
1:35:14	なところがあったりしそうなこと、あとは前のページに書いてるんですけども東側地盤というのは火山性のアノ軽石っぽいものが結構あったりする岩盤があったりしますのでちょっと波が散りやすいような状況になっているというようにところ、それらを踏まえると、青というのが一番上の方に来ている、西側よりも場合によって大きくなるというのはおかしくないですねというようにそういうような
1:35:34	上下関係ですので、この順番と上の速度構造というのは対応がとれてるなというふうなところでございます。以上です。
1:35:42	規制庁鏡です。
1:35:44	ちょっと聞き逃しちゃった。もう 1 回こういう例えば緑が減衰妥当、緑が一番上に来てそうなものなんだけどそうじゃなくてこういう視点があるから、

1:35:57	緑より上に来ててもおかしくないんだっていう説明だったと思うんですけど、もう1回そのところいいですか
1:36:03	日本原燃越智です今、上出さんおっしゃった通りのところではあると思いますんで、ちょっとその前に申し上げたところが赤と緑を比べると、単純なアノコウ速度が、
1:36:14	緑、赤と緑はいいんで緑と青のその家、何でかっていうところだけ教えてもらえれば、了解です。緑と青はい。今上出さんおっしゃった通り地質の方も、速度の傾きだったり、監視の
1:36:29	軽石みみたいなものの分布から青が大きくなる、緑よりも大きくなっても不思議ではない、そういうことでございます。
1:36:37	アイピース直下ミス、トイレ数だけじゃわかんなくて、VS数、小さくても、岩種によってはそういうAVS大きくても減衰が大きくとれちゃうものもあるし、それは、
1:36:50	当然、粒径とかいろいろあるでしょうからっていうことで、妥当だということなんですかねその辺が説明もされてるってことでいいですかね。はい。上出さんの、日本原燃渡瀬今上出さんがおっしゃった通りのことでございます説明は476、477ではしているつもりでございます。
1:37:09	はい、規制庁コマツわかりました。
1:37:12	オカベシノさんでありますか。
1:37:19	特になければ次表層の別紙2-4ですけど、確認あればお願いします。
1:37:30	規制庁の岸野です。私の方からですね、今回新たに図、
1:37:35	追加されたデータの、
1:37:38	分析をしているところ、ページで言うと、806ページから810ページですかね。
1:37:46	その辺りについて、幾つか確認したいと思います。
1:37:49	まず806ページをお願いしたいんですけど。
1:37:58	この下のパラグラフの文章ですね。
1:38:06	この文章を読みますと、今回の追加調査を目標が果たせなかった上で説明があるんですね。
1:38:14	今回の追加調査の計画ってのが、後ろの方874ページとかにありますけども、そこの(3)の説明を見ますと、
1:38:24	基本的に平面的深度的に、
1:38:27	既存だとデータが少ないところを議論的でやっています。掘った結果、なかなか思うようなあみやも層が出てこなかった場所を変えるとかします。
1:38:37	で言ってるんだけど結局それができなかったって言ってるのが806ページのようなんですね。

1:38:43	訓練も目標が果たせなかったのかっていうのをご説明いただけますか。
1:38:49	はい、東電設計の宇野でございます。
1:38:52	今回ですね、この第3-4-2図、ページの805ページを見ていただきたいんですが、
1:39:01	今回やった、
1:39:05	試験結果の10をですね、三角と丸で、赤の印で示してございます。
1:39:11	このうちですね深さ方向前回、前回といいますか清で、
1:39:16	深さ方向が全くなかったのがですね、2000年以降のですね、G0でございましたので、
1:39:25	その二つについてはですね今回、十分たるものを
1:39:30	やりました。で、
1:39:33	1999年イセ以前に対しましてはですね深さ方向はですねこれ一行ナンバーの8位というのがございましたが、
1:39:44	この深いものをですねねらって、或いはその平面的になって1999年につきましてはちょっと平面的っていう方向方法をですね、
1:39:54	優先したんですが、深いものも直ってはいたんですが、実際にですね、掘ってみるとですね基本的に
1:40:04	北川に上がるに従ってですね岩盤が浅くなっておりまして、深いところというのが、建屋の周辺にしかない。
1:40:13	というふうな状況でございました。それで、ナガタ何万7と787と8ですね前回深いところもあったものについてはですね、その周辺だけある程度深いものがあるってそこはもうすでにとれていたということで、
1:40:28	ちょっと深いところがなかったということでちょっとこういうふうな書き方をさ、1999年以前につきましては深いところがなかったということで、ちょっとこのような書き方をさせていただきました。
1:40:42	社長の岸野です。とすると、2000年以降は目標を果たして、
1:40:48	99年以前から、
1:40:50	果たせなかった。
1:40:52	で、その原因は、
1:40:54	深いところが出るだろうと想定して掘ったんだけど出てこなかった。
1:40:59	つまり想定と違う地層状況だと、そういうことでもいいんでしょうか。
1:41:05	配当設計のものでございます。はい。その通りでございます。
1:41:08	成長の規制なんです。はい。調査計画で掘って出てこなかった場所を変えるっていうふうな説明もあるんですけどそれはどうなんですか、やんなかったんですか。
1:41:18	当然設計の海野でございますが、実際にはですね、FLの5番というのをですね計画してございました。

1:41:27	ここはですね深いところまであるというふうと一緒に聞いて、すみませんそのFL5 番の位置がわかる平面図をどこに教えていただけますか。
1:41:37	ですね申し上げは何、当然設計のものでございますが 876 ページを見ていただきたいんですが、
1:41:48	はい。
1:41:55	はい、規制庁木曾です。よろしいですか。場面がキクカワないんですがよろしいですか。はい。そうですね。ちょっと書いてないです。藤映帆廃棄物管理建屋のですねBIIとBというところにですね、追加の⑤というのが赤敷きで、
1:42:12	ありがとうございます。
1:42:14	で、この辺がですねある程度深いということを見込んでですね。
1:42:19	掘削をしたんですが、
1:42:22	実際にはですねこの下にですね、改良地盤が出てきてしましまして今年の初め頃にですね、
1:42:34	サブのラインの工事で新聞の方ですね、時間作業したということで、そこから辺の背景は結構ですって見たら想定しない地盤改良が出てきたんで、
1:42:46	深井梅本層が確認できなかったと。で、場所を変えてやろうかといったときに、この建物に挟まれた狭隘な場所なので、
1:42:56	他のかわりの場所が出ない、見つからなかったとそういうことでいいでしょうか。
1:43:02	当然設計のものでございます。その代わりにですね場所を選定してはやったんですけどもやはりちょっと深いところがないということで、やはり 10 メーター以深のですね、深いところがなかったというのが実情でございます。
1:43:18	規制庁石井です。はい、わかりました。
1:43:20	としますと、99 年以前については深いところに追加データがやらなかったわけ。微増データにある、多分 1 データだと思うんですけどもその位置データだけでも 99 年以前にも代表しちゃってる状況なんですけど、
1:43:34	今回の追加でもそこ受け取れなかったということで、結局、何か既存データに追加調査データを加えてミヨカワの資料を見てますと、あまり傾向的に変わらないように見えたんですが、
1:43:47	今回の追加調査を加えたこと、
1:43:50	その進藤for本傾向とか、何かもう獲られたものっていうのかな。
1:43:57	何かこれがはっきりするようになりましてとかっていう説明ってのはできるんですか。
1:44:03	はい、東電設計の宇野でございます。

1:44:05	アノつ藤 1990 年以前につきましてはですね今回深いデータはとられてなかったんですけども、南波愛翔No.8 というやつのVs自体はとれてございます。
1:44:17	前はですね 2000 年以降でこの深いところが取れてなかったのでVsの整理をさせていただいて、1990 年以前と 1909、2000 年以降、
1:44:27	以降のですね、比較をさせていただいたので、それと同じことをすればですね、全体的なVs分布からですね、当該地点の物性値の全体像がわかるということで、前回と同じような平均的なVsを用いました比較ということで、
1:44:46	をさせていただいております。
1:44:49	規制庁の岸野です。よくわからないんですけど、深度方向に欲しいデータ替えられなかったんですけども、結局、今回の追加調査の目的は果たせたと、原燃は考えているということかと思えますけど。
1:45:02	どういうところをもって今回の追加調査は、どういう目的を果たせたと考えているのかということをもっと具体的に教えていただけますか。
1:45:11	はい、東電政権のものでございます。1999 年 2000 年でですね実際に管理基準の方法が違いますけども、
1:45:22	ほぼ同じような土質材料、土質材料といいますか、砂案、
1:45:28	昨ツジ版に仕上がってございますし、同じような管理をしたということで、この先ほどの 805 ページの 3-4-2 図でございますが、これをですねの見ていただきますと、
1:45:41	前回の既往のボーリングで既往の試験でですねG0 の平均とばらつき、標準誤差をですね示しておりますが、
1:45:52	今回ですね数多くやった結果がですね、この中に収まっているということで、これはですね補ほぼ同じ母集団を、の結果を非示しているものと、
1:46:05	いうふうに考えてございますが、今、今回の結果からですね前回の気温もG0 の分布がですね説明できるということではですね、この大府部設置で正しかったというふうなことをですね今、県の考えております。
1:46:23	規制庁のキシノすみません、規制庁カミデですけど、
1:46:27	今の同じ母集団っていうのは、何、何のことですか 1990 年以前と 2000 年以前合わせたものを母集団と言ってるんですか。
1:46:37	はい当然セキのものでございます。はい。その通りでございます。はい。室長です。だからイセ年代分けずに、以前も以降も、
1:46:49	合わせた母集団に対して、今回、両方の方とってみたわけですね。1990 年以前は震度は取れなかったけど、まあまあ、幾つか取れてと。
1:47:00	同じ母集団に入ってますってそれ当たり前の話なんじゃないですか。

1:47:05	はい、当然設計のものでございます。当たり前の話なんですけど、前回、藤さんのヤノニイツを見ていただきますと、前回のですね 93 コウでやりました。黒で書いてございますばらつきの中に、
1:47:20	今回ですね全部のコウで入れております、赤の破線の標準誤差が入っております。これにつきましてはですね、基本的に水道計画のですね、整理といいますか。
1:47:34	ご集団が同じであればですね平均に近づいてばらつきが小さくなるというふうな、そういう傾向が見られておりますので今そういうふうなことを言わしていただいたわけでございます。ちょっと割り込ましてすいません。宇野さん、これって御説明ってこうね。
1:47:49	4.3. 6 ニイツと合わせて 3.4. 5 の傾向も一緒にご説明しないといけるところが伝わらないんじゃないかと思うんだけど、
1:48:02	いざBSで検討したときには、このあれですよ、新旧年以前と以降の傾きが、そのオオツカでそういうことで建設していくっていう傾向が見られたっていうのが今回の世界だっていう理解なんですけど、トヨタセキもでございます。
1:48:21	今榎本さんにおっしゃっていただいたと思うんですけど、前回ですね数が足りない分を、とりあえずもですね、
1:48:31	離散化ということでやらせていただいたんですが、今回もですね 809 ページに示しております 3-4-5 図でございますが同じ整理をさせていただいております。
1:48:42	これですね今回、
1:48:45	左側ですね、表の結果でございますが、赤が 2000 年、以降、案はせということでございます。今回ですね、全ボーリングをまた同じような整理をさせていただいてに参加した、
1:49:01	平均値からですねG0を求めたものでございますが、これを見ますとですね、一般畠埜タイプですねそれぞれの平均値も、
1:49:13	教授補佐の中に収まっておりますし、またそれぞれの会議がですね、平均の会議に近づいてきてるというふうな表が出られております。このことからですね先ほど言ったような、
1:49:25	発言を同じ母集団というふうな言い方をさせていただいております。
1:49:32	規制庁カミヤ 809 ページから同じ母集団だっていうのは何かよくわかんないですけど、809 ページの話を、
1:49:40	するとあれですよ、原燃としては、既往のボーリングデータの青の線赤の線、クロスしてますけど、
1:49:49	これが、

1:49:50	違うものかっていうと、ばらつきの中に入ってるから、別に問題ないんですって、もともとそういう考えってことですよ。
1:49:59	当然設計のものでございます。神さんのおっしゃる通り、そういうことを言いたかったわけでございます。
1:50:06	規制庁菅ですって、今回右のデータが出てきたけど、これも同じく、当然ばらつきの中に入っているし、若干その傾き、近くなってきましたから、
1:50:18	平均でよかろうってそういうことですよ。
1:50:23	はい。当然設計の部分でございます。そう、そうでございます。はい。
1:50:28	はい。次ちょっとミスなんで、
1:50:31	要は何も変わってないというか、市長としては、一緒ですというゴトウですね。要は、既往のボーリングで多分一緒だっているところから、特段何かプラスの材料があるかっていうと、
1:50:45	特にないと私は思ってるんですけどそういうことでいいんですよ。
1:50:50	例でございます。ですねロジカル的には、五味さんおっしゃる通り、その材料が何か新しく出てきたということではないです。で、プラスされるかなと思いますのは、今、この3.4.5の右の図で、その傾きが近接することになってきたということで、
1:51:09	アベにですね我々考えているところに、データが増えることによって、近づきっていうのがちょっとアノを入れることかなというところでございます。すいません。
1:51:20	規制庁菅です傾きの話をするとじゃあどこまでっていう話に長くだけで、
1:51:27	結局あれですね傾きって言ったって、ばらつきの中に入るような傾きだったら何でもいいんですってそういう主張ですよ。
1:51:36	はい。ものでございます。前回からご説明しておりますように平均値とばらつき、設計です。ですねこのワンシグマというところまで含めてやればですね、今回のパランスの中にですねほぼすべての考え現象が入ると。
1:51:52	ということでこれでいいのではないかとということでございます。
1:51:56	はい、規制庁コマツアノ考えとしてはわかりましたんで。はい。私からは以上です。
1:52:02	オカアリタ割り込んですみませんでした。
1:52:19	記者3台も大丈夫ですか。
1:52:25	規制庁の中ですいません。見落としましたましゃべってました。今のやりとりです。ね原燃の考えはわかったんですけど、872ページの方に今回の追加調査も含めた、
1:52:38	結論みたいな説明があって、
1:52:41	上の下線の方ですね。
1:52:45	結局、施工年代でデータを分けると若干異なる傾向します。示すが、

1:52:51	別材料として、トラフィックビリティゴトウ野瀬スズキ施工されているので、
1:53:00	いいんですっていう説明のようで、結局今回の追加調査結果から、施工状態を、
1:53:08	受けて物性値を設定しないでいいんだっていうところは、この説明だと、られなくて、施工時のその管理方法とかが同じだからいいんです。
1:53:21	ていうのが原燃説明になってるように見えるんですけど、県の結論はそういうことでいいんですか。
1:53:30	県民の方でございます。はい。概ねそういうことかなというふうに思っ ましてその管理として一つの文球団として扱えることができるだろうとい うのがものを見たときの我々の見解ではあるんだけど、それをデー タで見たときにどうだというときに、
1:53:46	行政もばらつきがそれなりに見られるようなデータであったと。今回デー タふやしてみたところの傾向を見ても、そういうデータが増えていくとそ の一つの母集団として扱えると。
1:53:59	いったようなことを補強するようなデータがえられたのでそういう考え 方を、ある意味補強できるといったような考え方で、使えるんじゃないか というのが我々のこの見解でございます。以上でございます。
1:54:12	清町の岸です。はい、わかりました。多分、この説明って施工年代で違 いがあるが、施工の方法とかが同じだからいいんですっていう説明だっ て今の分数の説明が全然反映されてないと。
1:54:25	なので、ちょっとそこは説明いただかないと元の結論は結局、
1:54:30	無理っていうところになるかと思えますんで、そこら辺をきちんとご説明 いただきたいし、会議の時にですね、そこは明確にしていきたいと思 いますけど、ドイヤマサキです。
1:54:41	はい。現状でございます。はい。申し上げたいことがちゃんと伝わるよ うな、ちょっと表現ということを考えたいと思います。以上でございます。
1:54:49	はい。規制庁の岸野です。はい。私から確認は以上です。
1:54:58	オ力規制庁側から何か確認ありますか。
1:55:01	規制庁浜崎ですけどそしたら
1:55:04	先ほど話があった 890809 ページか 609 ページの要は、非常に左側の 図ですね、企業ボーリングのこれ企業に対して今回追加調査をした結 果右側の、
1:55:19	傾向になりましたということで、赤のところですね 2000 年以降につ いては、確かに深い方のデータにしても、平均値とのばらつきにしても、補強 されて赤の、

1:55:29	2000年以降については問題ないっていうのが確認されたというのが感想なんですけれども。
1:55:34	青に関してはやはり麻痺、深いところが取れなかったという理由があってもですね、あまり傾向的に、赤と青が一緒ですという傾向が見られないで、
1:55:50	元に結論ありきでカトウ一緒ですって言いたいと思う。
1:55:54	というふうに主張してるというふうに考えるんですけども、これ、青と赤のプロットの状況から見て、 이슈といえるんですか、これ。
1:56:07	原因のことでございます。とですね、ここは一緒だという宗教までは我々もできないと思ってますし、手でですね一緒になる方向にデータを加えることによって、近づいていくという傾向が見られたというのが、
1:56:23	今回の結論なんだというふうに、すいません、規制庁カミデさつき話をしたこととまたちょっとずれてる気がしていて、原燃は、
1:56:33	要は物理的にとかっていう、どうかは、そこまでいってるのか、あるかもしれないですけど要は結局平均
1:56:40	病ワンシグマの中に入ってる傾きだったら、一緒に扱えるってそういう主張だっていうことですねだからもう判断基準が多分、そういう判断基準なっちゃってるっていうギャップがあるんだと思うんですけど、全然違いますか。
1:56:58	ある。
1:56:59	当然設計のものでございます。設計的にはもうそういうふうな考え方でやっておりますので、それを今回確認したということが事実でございます。
1:57:16	規制庁浜崎ですけれども、設計的にはといっても今回の追加調査の目的はあくまでも、
1:57:23	ゼロクリアしましょうという観点だというふうに理解してます。
1:57:26	で、例えば右側の図のような結果が出た場合にですね、例えば震度10メーター程度のところの、
1:57:34	なぜ赤みから乖離するんだとかいう、その物理的な現象がこうだからとかですね、それが安里、青、実際、
1:57:45	現実としてはこう考えれば、ほぼ1兆飛び出せるとかですね。
1:57:49	そういう、もう少し詳細なこと、ここの、その値違ってるところはなぜ違うんだとかですね、沼田さん言うように確かに全体としては、傾向は今度追加によってですね
1:58:03	一本化される赤2、或いはプロの方に一本化される方向には近づいたわけですけども、まだそこまで改善されているようにはこれでは見えませんので、

1:58:16	先ほど言ったような個々の特性の、地盤物性こういう理由で返してるだとかですね、それが、建屋の地盤モデルとしては、影響するしないという判断をしないと、
1:58:28	やはりこの赤のプロット、青のプロットを同じ地盤
1:58:33	条件ですというのはなかなか苦しいというふうに普通は考えると思いますんでですね。
1:58:40	ちょっと今この段階で
1:58:43	兵頭に関して追加のを踏まえて、全体の平均でいいですっていうのはなかなか難しいというのは思いますので、そこら辺の説明がきちんとできるかどうかなんですけども。
1:58:56	事業者の方いかがですか。
1:59:00	答弁セキものでございます。
1:59:02	とですね、2、205 ページー805 ページのですね、
1:59:09	3ー4ー2 図を見ていただけますでしょうか。
1:59:13	はい。
1:59:15	ちょっと見にくいんですが、今回ですね、1990 年以前の、
1:59:24	今回のコウをですね、赤丸で書いてございますが、この赤丸はですね 5 メーターから 10 メーターのところに存在しております。この 5 メーターから 10 メーターのところに存在する赤丸というのはですね、
1:59:38	全体の回帰線のほぼ両側に分布するような形になってます。
1:59:43	それで先ほどの 300、809 ページに戻っていただきますと、この 809 ページのですね、10 メーターから下はですね、一つの課が一つのボーリングの結果だけです。
1:59:55	だから本来はですねこのボーリング孔の深さのところを払拭したかったんですが、
2:00:00	今回とったボーリングの中にこの深さがなかったもので、
2:00:05	実際にはちょっとここ、前回と同じ格好にはなってるんですが、その辺のところを見てもですね先ほども言いましたように標準誤差が、前回の一番最初の基本モデルから、今回を予測した時にその予測の内側に入るということ自体がですね、
2:00:22	これはもう一つの店でいいというふうに我々は考えております。
2:00:26	ということで今回とったやつ、今回とった 1999 年がですね、この青印のところっていうのは、データこういうデータがあるんでそういうデータも含めてですね、ワンシグマというもののばらつきをとってやればですね、
2:00:41	表現できるというふうには私どもは考えております。以上です。

2:00:45	はい。規制庁浜崎です。すいません。規制庁神です。1点だけ私共には支援いただいている電力関係者ゼネコンの人たち含めてっていうことで聞いていいですか。
2:00:57	はい、当然設計のものでございます。これについて支援者の方にもですねご協力いただいております。
2:01:06	衛藤規制庁上津見てるだけじゃなくて同じ考えたってことでいいんですよ。
2:01:11	はい、答弁設計のものでございますはいそのように
2:01:15	言っております。
2:01:18	はい、わかりました。すいません。はい、市長山崎です。
2:01:22	まずその800ページのZoomが、非常にこれはわかりにくいんです。
2:01:28	先ほど支持岩盤の減衰のところ480日、1ページでしたっけ、あそこ追加のデータはこういう形になりましたっていうのはある意味、非常にわかりやすかったですけども、
2:01:39	表層に関しては、追加のデータって一体どういう傾向なのっていうのは非常にわかりにくい、さっきの809ページになっては、もうわかるんですけども、でもあれも既往のものと、ミックスされてるわけですし、
2:01:51	先ほど805ページで宇野さんが説明されたことも、
2:01:57	要は例えば、平均に近づかない2000年、
2:02:02	前後で近づかない理由は、既往の、10-10名タテ程度のところの観測ほぼ、
2:02:10	記録が、
2:02:13	データが、それが全体を引っ張っているのかどうかとかですね、そこら辺がですね、この資料から読めないで、
2:02:22	そこをきちんと、宇野さんがさっき口頭で説明されたのでもなかなかわかりにくいんですね、文書として或いは図、もう表現としてもですね、もう少しわかりやすく説明してもらわないと。
2:02:37	結果的に809809ページの最終結果、ミックスされたものを見たら、赤と青のプロットは、
2:02:44	どう見ても違いますねっていう。
2:02:46	のが一般的な評価に、我々としてはそういうふうに判断しちゃいますんですけども、そこをきちんと説明してもらいたいと思うんですけども。
2:02:57	はい県民の方でございます。おっしゃる通りかというふうに思います。このデータから見えることが何であったところをちゃんと書いていくのはむしろのことなんですけれども、今、赤と青が一生かというところこれは一緒ということまでは言えないということも申し上げました。

2:03:16	で、今宇野さんから説明があったように恒例についてこういうデータのですね海脚をすることによってこういうふうに推測できるというようなところも、
2:03:30	それも含めつつですねと、この江藤会議といいますか赤と青が違うけれども、だけでもこれをどう解釈して、
2:03:41	その根拠をもって、この同じというふうに我々ヒグチとして辿り着くのかというところを、ちょっとちゃんとちょっと書きくださないといえますかわかるようにちょっと記載するというのかというふうに思っております。ちょっとそこは
2:03:59	対応させていただきたいと思います。以上でございます。はい。規制庁山崎です。先ほど宇野さんが言った、我々は設計でこうしてましたからっていう。
2:04:09	まずそれはゼロクリアしてください。
2:04:13	よろしいですか。
2:04:16	元の方でございます。承知いたしました。
2:04:24	はい。山崎から以上です。
2:04:29	はい。それでは、他下司に寝よう関係ありますか、もう大体いいですかね。
2:04:36	はい、じゃあ全般として岩瀬てることとか何かありますか、規制庁が原燃課から、どちらでもいいですけど。
2:04:46	特になければもうお昼入っちゃったんでできれば簡単に振り返りまでやってしまいたいと思うんですけど、全然対応できますか。
2:05:04	玄野本でございます。そしたらですね振り替えさせていただきたいと思います。まず、別紙2の1岩盤部門の設置等のところですけども、ここにつきましては各グループにおけるPS系層厚の選定の考え方につきまして、
2:05:20	グループ周辺の中高の適用について、これちょっと再検討させていただくということを申し上げましたのでこのですね全体の考え方を再度整理した上で、またご説明というふうに考えてございます。
2:05:35	会合での話し方明日ちょっとご提示差し上げることかというふうに思っております。
2:05:40	次ですけども断面図を用いた敷地地盤状況の確認におきましては、タテ許可だけでなくその周辺地図読み込めて確認を行っている。
2:05:51	いう概ねの説明を、これをアノを追加することと、いうふうにいただいております。
2:05:57	それから211ページの、24のアノ部セッションの整理結果につきまして、強みソース試験結果を踏まえて今後記載するということが、わかる

	ようにちょっとここ記載のみ親切だったのでここ基金とアノツジの記載内容を適正化いたします。
2:06:12	で、それからですね、断層の影響確認応答スペックの比較の着目の周波数のところですね、こちら、前回指摘もいただいておったんですけどもまだ未反映であるということのリマインドいただいているところがございます。
2:06:27	で、
2:06:29	あとですね許可物性との比較結果につきまして、その目的として、各位置のPS検層結果の特徴を確認すると、いうことを明確にして、その確認の結果目的に対して、どのような傾向となっているかと。
2:06:43	要はどのようにその目的のものが確認できたかというようなところ、わかるような記載をすることというふうにいただいております。
2:06:51	それから許可分セガワーシノ依存性を考慮しているものとして設定してございましたけどそれについて説明を追加することというふうにいただいております。以上が別紙2-1。
2:07:02	のびシノさんの岩盤部分の減衰定数ですけども、こちらですね659ページ、東側地盤の同定結果とエザワ検層の
2:07:12	返りが他の地点と比べて大きいということに対しまして地震観測員1に置いてられた知見を踏まえた考察を行いまして説明追加することということで、これ西側地盤も同様でございます。
2:07:28	658ページのSRS結果製品観測記録による同定結果の比較による減衰要素の代表性につきましては、設計の内容に踏み込んでいることからこれちょっと機械的世界だったと存じます。
2:07:41	これちょっと他にも同じところがありますので、水平展開して修正していきたいというふうに考えてございます。
2:07:48	それから653ページが環境法の横線の色ですねこれちょっとSrエンドウとですね色かぶってますんでこれは改めます。9、それからですね次ですけども短周期側の、
2:08:01	減衰定数の振動数依存性につきまして、佐治圧縮試験結果からラレル責任持っている地震時の非線形性を踏まえた考察を行いました上で設計で用いる減衰定数を、
2:08:14	決定するという方針になるわけですけども、そういうことをちゃんとイマイつつあった日とさせていただいたというふうに思っております。
2:08:23	次に、表層部分ですけども表層の物性の方でございます。822ページ管理方法のられたデータの繋がりが結論として伝わるような記載に見直すことということで介護でのご説明も、

2:08:40	そういうところを、我々の考え方がちゃんとお大井きしできるようにということでしたいてというふうに考えてございます。
2:08:48	それから 894、809 ページの年代別の頭が 0 に、違いがあるということではございますけれども、こういう、今回我々全体として同じものとみなして良いというような説明をしてるわけですがけれどもこれをですね、
2:09:05	その考え方と今のデータに基づく、その分析とそれから根拠を考える根拠ですね、ここんところをもう一度ちょっとロジック整理して、わかりやすい文章で記載すると。
2:09:17	ということかというふうに思っております。それを人生の追加調査を含めてデータの傾向についても同じだというふうに考えてございます。以上でございます。
2:09:29	はい。規制庁上井です。
2:09:32	2-4 のところで、
2:09:36	まず最初に管理方法が、その結論になるようにって言ってたんですけど、こういうイメージでしたっけ。
2:09:44	えっとですね、管理簿が結論やといいますよりは管理方法がまずアダチで、それに基づいてデータが、上からあるようなことであるということ整理して、
2:09:58	内容がですね、我々の考え方としてどういうふうに結露が繋がっているのかといったようなところをきちんとちょっとロジカルにわかるように、といいますか我々の考え方に伝わるようにお示しすることだというふうに思っております。以上です。
2:10:14	規制庁神です。
2:10:17	うん。どういうロジックなんでしたっけ、何か。
2:10:22	言われたのは何かいろいろばらついてるんだけど、結局管理、同じように管理してるからいいんですって言うのかなと思いきや、そうではなくて、ということですか。
2:10:34	ですね。もう非常に簡単に申しますと同じような管理に基づいてますよね。浅井ミラウところはあるということは認めた上でと。
2:10:47	最後の行はあることを認めた上で同じような感じてるから、これも同じ募集として扱えるかどうかということデータを、まず並べてみて、確認いたしますと、
2:11:00	整理データを並べたときに、その管理の違いに基づく差異というのが、そのデータ、データ点の中で、土佐が見れるというのがそれがまだ蓄積究明と移行の

2:11:14	違いだと思うんですけども、そのデータの傾向がこういう形になってますと、それは追加調査の結果踏まえて踏まえてこういう形になってますと。
2:11:28	そこを、差異について、その主体がどう解釈すべきかでなぜそういうふうな差異が生じているのかと、いう分析を踏まえてここのですねグループ、
2:11:41	一つの糾弾と与えるかどうかというところの考え方を我々として示すということだというふうに考えてございます。以上です。
2:11:52	藤規制庁カミデです。
2:11:54	今の話でも、同じものとして扱えるどうかということが判断基準ってどう考えてるんですか。
2:12:02	県の方でございます。中園イセ委員が、なぜ今日見ているのか、操作員が、
2:12:11	どういふふうに、そういったものである、なぜ生じたものかということとそういうふうにしじたものであるのかと、いうことのご説明をすることでこれは一つとして扱って差し支えないものかもしくは別々に扱うべきものだと。
2:12:27	と申します。これ、一緒に扱える方向に我々見えてるというふうには思ってるんですけどもそこがちゃんとご説明できるということかなというふうには思っております。
2:12:42	当然設計のものでございますが、私どもの先ほどのお話でですね、別に材料が同じというところに焦点を当てているわけではなくってデータ分析としてですね今回、
2:12:56	追加したデータをもう少し、うまく、うちきちんと説明をして、それで我々が説明できる、
2:13:07	1999年と2000年ということに対してですね同一の物性でいいというふうなことをですね、もうちょっと説明をするようなことで、説明をしていきたいというふうに考えております。
2:13:21	以上です。
2:13:23	規制庁カミデ様、とりあえず一つの要望としては、何かこういうことなんですかっていうとそうなんです管理してるからなんですかっていうとそうなんです。ばらつき中収まってるかっていうことですよ。
2:13:37	て言ったらそうだし、ここの差をしっかりと分析するんですよ。それでわかるんですよって言ったらなんかそうなんですって言って、
2:13:45	ちょっとまだ原燃としての考えが固まってないように私には聞こえていますので、こうだからいいんだっていうことをちゃんと皆さんで話を、あつて

2:13:55	考えを固めるっていうところをまずしてもらえればと思います。よろしくお願いします。
2:14:00	はい、当然設計のものでございます。はい承知いたしましたので、承知いたしました。
2:14:07	はい、規制庁カナダほか、規制庁が変わりますか。
2:14:11	あとなければ最後スケジュールの話なんですけど資料を、
2:14:18	全部いつ直すかっていうのは
2:14:23	冒頭でもまだ反映しきれてない宿題もあり、今日また新たに出た宿題もあってっていうことなんですけど、何か説明できますそれとも、また今週の説明方ぐらいまでにはっていうか、形なのかいかがですか。
2:14:38	辨野でございます。ちょっとそこは検討するお時間いただきたいと思えます。少なくともこの前の進め方冷やでご提示は1月18日あそこにはもう全部反映するという認識はありますけども、ちょっとそれを呉コウノアノそこに至るまでにですね、
2:14:55	ちょっとご提起する必要があるんじゃないかというような認識もちょっとありますのでそこをちょっと我々の中でも整理したいというふうに思います。以上でございます。
2:15:06	はい、規制庁カミデです何らかステップを踏んだ方がいいと思うのでそのつもりで話上げ、計画を示してまた話ができればと思います。
2:15:17	オカ規制庁側から何かありますか。
2:15:20	迫です。
2:15:22	今1がⅡ、18っていうことと言われたんですかね。
2:15:34	三野でございます。先ほど私1月にはっきりと申し上げたのは前回の進め方ヒアでご提示した次回のタケノ08の、次回の提出予定のことを申し上げたものですけれども進め方の時にも、
2:15:50	ちょっとそこまでの段階をもう少しブレークして、ちょっと進め方を再検討ということに宿題いただいていますから、それで再検討してご提示することだというふうに考えてございます。以上です。
2:16:03	古作です。それは
2:16:06	次回の会合に向けてっていうことスケジュールだと思うんですけど、
2:16:11	来週の会合に向けての対応っていうのは、今日のは何も対応しないで臨むということですか。
2:16:22	案件の方でございますまず、介護資料につきましては、本日のいろいろ拝借言っははいけないところっていうのはございますのでそこは反映しないといけないというふうに考えてございます。
2:16:38	今日もうすでにですね広いですけども、今日ご提出にはちょっと間に合ってございませぬけれども、ご提出方向性というのは、明日ヒアリング

	でご説明できるように、我々決めさせていただいて、こう修正しますということで、お話をさせていただくというふうに考えてございます。以上でございます。
2:16:57	はい、小沢です。よろしくお願いします。もうすでにステージの手はずをとっていると思うんですけど、介護資料では、地盤はどの、
2:17:10	グループ、
2:17:11	かっていうと、G14 でしたっけ、の二つってことですか。
2:17:19	はい、辨野でございます。はいそうです。次 14 です。はい、わかりました。じゃあそこに入る必要なものは反映する整理をして明日説明いただけると。
2:17:30	いうことで理解をしましたけど、
2:17:40	はい、規制庁ヶ月他全廃よろしいですかね。
2:17:45	はい。じゃなければこれでちょっと押ししてしまいましたけど、ヒアリング終了します。
2:17:50	録音停止してください。録音停止